

昭和 63 年度論文賞受賞論文の決定

昭和 63 年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（石井委員長ほか 34 名）において、「情報処理学会論文誌」第 28 巻第 10 号～第 29 巻第 9 号ならびに欧文誌「Journal of INFORMATION PROCESSING」Vol. 10, No. 3～Vol. 11, No. 2 に発表された全論文 132 編につき慎重に審議が行われました。その結果下記 4 編が最終候補論文として推薦され、第 331 回理事会（平成元年 4 月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 18 日に開催された第 31 回通常総会において、著者に表彰状、賞牌、賞金が授与されました。

○ 「コード生成部生成ツール COO」

〔論文誌 Vol. 28, No. 12, pp. 1227～1236 (1987)〕

三橋二彩子君（正会員）



C&C 共通ソフトウェア開発本部環境システム開発部勤務。

昭和 36 年生。昭和 58 年、津田塾大学学芸学部数学科卒業。同年、日本電気(株)入社。以来、マイクロコンピュータ用ソフトウェア、主にコンパイラおよび関連ツールの開発に従事。現在、同社

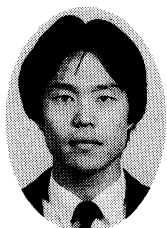
石川 浩之君（正会員）



ライブラリの開発に従事。プログラム開発環境、計算機アーキテクチャに興味を持つ。現在、ソフトウェア事業部第三開発部勤務。

1960 年生。1983 年東洋大学工学部情報工学科卒業。同年日本電気技術情報システム開発(株)入社。以来、マイクロコンピュータ用ソフトウェア、特に言語処理系のレジスタ管理、最適化処理、ラ

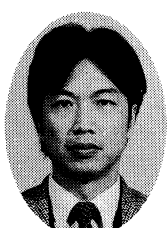
佐治 信之君（正会員）



システム開発部主任。C, Common Lisp 等言語処理系の開発に従事。オブジェクト指向プログラミング、高級言語処理系に興味がある。日本ソフトウェア科学会会員。

昭和 32 年生。昭和 57 年、東京工業大学大学院理工学専攻修士課程修了。同年、日本電気(株)入社。昭和 62 年から 1 年間、MIT LCS に研究者留学。現在、C&C 共通ソフトウェア開発本部環境シ

保坂 勇君（正会員）



共通ソフトウェア開発本部環境システム開発部課長。

昭和 26 年生。昭和 50 年千葉大学工学部電子工学科卒業。同年日本電気(株)に入社。以来、プログラミング言語処理系（コンパイラおよび関連ツール）の研究開発に従事。日本電気マイコンテクノロジー(株)への出向を経て、現在、日本電気(株)C&C

藤林 信也君（正会員）



エア工学、ソフトウェア開発環境などの研究開発に従事。現在、同社 C&C 共通ソフトウェア開発本部長代理。ACM 会員。

昭和 17 年生。昭和 41 年京都大学工学部電気工学第 2 学科卒業。昭和 43 年同大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。同年日本電気(株)に入社。以来、プログラミングシステム、ソフトウ

〔論文概要〕

多機種のコンパイラを効率良く開発するためのコード生成部の自動生成ツール (COO) について述べている。COO では、コード生成部の自動生成における方式の一つであるテーブル駆動方式、特に Graham-Granville の方式を基本とし、LR パーサではなく再帰下降式パーサを生成する等の改良を行い、実用化している。また、コード生成部中の機種独立に共用できる部分をライブラリとして提供し、最適化処理も実用的なレベルで行っており、実際に V 60, i 8086, Z 80, VAX, MC 68020 などの機種用のコンパイラの開発に適用して、その評価を述べている。

〔推薦理由〕

コンパイラの自動生成は、構文と意味解析に関しては実用の域に達したが、コンパイラの後半部をなすコード生成については、現在盛んに研究が行われている。当論文はコード生成プログラムを自動生成するツール COO について述べる。これは表駆動方式であり、対象機種の命令語、レジスタ、アドレッシング形式等を記述して与えると、中間語からコード生成を行う C プログラムを生成する。本システムはコード最適化やレジスタ割りつけに工夫が見られる。テンプレート・マッチ方式である S. C. Johnson のポータブル C コンパイラ PCC と比べて、いくつかの C コンパイラ作成の実例において、1/4 の記述量ですみ、しかも同程度の効率を得ている。論文賞受賞に値する。

○ 「キャラクタ・アニメーションのための人体の曲面モデル」

〔論文誌 Vol. 29, No. 1, pp. 7~19 (1988)〕

小松 功児君 (正会員)



昭和 34 年生。昭和 56 年東京大学工学部電子工学科卒業。同年 NHK に入局。昭和 59 年より放送技術研究所画像研究部に勤務。コンピュータ・アニメーションの研究に従事。電子情報通信学会、

テレビジョン学会各会員。

〔論文概要〕

人体の曲面モデルは、スティックフィギュアモデルを骨格とし、そのまわりになめらかに接続された Bézier パッチ, Gregory パッチを配置して表面の形状としている。このモデルは骨格の形や骨と皮膚の間隔などを変更することにより表面の形状の修正が容易に行え、いろいろな体型の人体をデザインすることができる。さらに、各関節における曲げ、ねじりの角度を与えると表面の形状を自動的に変形し、デザインしたモデルを動かすことができる。このとき、関節部分の自然な変形や筋肉のふくらみの表現を実現している。本論文では、これらの手法とこのモデルを使用したアニメーション制作手法について述べた。

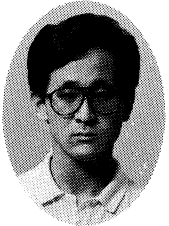
〔推薦理由〕

コンピュータグラフィックス (CG) によって人間の動作を表現することは、CG の適用分野を拡大していくための非常に重要なテーマの一つであり、従来より多くの研究が行われている。しかし、それらの大部分は、人体を単純な骨格モデルとして捉えた上で、いかにリアルに動きを表現するかという課題に重点を置いていた。これに対し、本論文は、人体表現のもう一つの重要な課題であるにもかかわらず、深く研究されることのなかった、リアルな人体の形状を与える手法を提案したものである。特に、関節の曲げやねじれによって生じる人体表面の変形を、曲面の制御点の変位や組み替えによって一般的に扱うまったく新しい方式を与えている。以上の点は、CG の今後の発展に大きく寄与するものであり、論文賞受賞に値する。

○ 「ベクトル計算機上でのソーティング」

〔論文誌 Vol. 29, No. 4, pp. 378~385 (1988)〕

石浦菜岐佐君 (正会員)



賞 電子情報通信学会会員。

昭和 36 年生。昭和 59 年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和 61 年同大学院修士課程修了。昭和 62 年より京都大学工学部助手。論理回路の計算機援用設計の研究に従事。昭和 63 年度本学会研究賞受賞

高木 直史君 (正会員)



アルゴリズム、論理設計などの研究に従事。電子情報通信学会昭和 62 年度論文賞受賞。電子情報通信学会、IEEE 各会員。

昭和 34 年生。昭和 56 年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和 58 年同大学院修士課程修了。昭和 59 年より京都大学工学部助手。工学博士。算術演算、ハードウェアアルゴリズム、ベクトル計算機向き

矢島 脩三君 (正会員)



〔論文概要〕

本論文ではソーティングをベクトル計算機上で高速に実行する方法について考察している。実際にベクトル計算機上で行った実験の結果、1) スカラ計算機上で高速なアルゴリズムである頻度法、S 整列法は部分的にベクトル処理可能であり、ベクトル計算機上でも高速である、2) 基底法、および本論文で提案する番地計算基底法は、ほぼ全過程がベクトル処理できるため、ベクトル計算機上では 1) の方法よりも高速となりうる、3) S 整列法、番地計算基底法で必要となる局所ソートには、スカラ計算機上では単純挿入法が有効であるが、ベクトル計算機上では奇偶置換法が有利である、等の興味深い結論を得た。

〔推薦理由〕

大規模数値計算を大量に抱えているユーザの、汎用計算機からベクトル計算機への乗り換えが目だっている。ベクトル計算機は浮動小数点演算以外の能力も強化されており、数値計算以外の応用も今後広く開拓する必要がある。本論文は、ベクトル計算機を用いた非数値計算に関する著者らの一連の研究の一つで、ソーティングの高速化手法について、系統的かつ網羅的に調べている。ソーティングはデータ処理において最も頻繁に使用される基本処理であり、ここで述べられている結果はベクトル計算機を利用する際の指針として有用であるとともに理論的にも興味深い。論文の記述は直截的で、読み易く、理解し易い。以上の点を総合して本論文は論文賞受賞に値する。

○ Supercomputing External Multidimensional FFT —Use of Semiconductor Extended Storage as Extended Main Storage—

〔欧文誌 Vol. 11, No. 2, pp. 112~119 (1988)〕

津田 孝夫君 (正会員)



1957年3月, 京都大学工学部電気工学科卒業。現在京都大学工学部情報工学科教授, 計算機ソフトウェア講座担当。工学博士。自動ベクトル化/並列化コンパイラ, スーパーコンピューティング, オペ

レーティングシステムの研究に従事。「モンテカルロ法とシミュレーション」(培風館), 「数値処理プログラミング」(岩波書店)などの著書がある。

〔論文概要〕

スーパーコンピュータの拡張記憶は, 大容量半導体補助記憶である。本論文では, まず記憶階層間のデータ転送の「複雑さ」の概念を新しく導入し, 多次元 FFT について主記憶・補助記憶間のデータ転送量の下界を見出し, その下界を実現するプログラムを書き下して計算の速さを実測している。これにより多次元 FFT などの, データが主記憶からあふれる大規模計算で, 記憶階層間データ転送を最適化すれば, 拡張記憶をあたかも拡張主記憶のように扱えることを示した。このデータ転送はベクトル化できないにもかかわらず, 加速率が20倍以上のベクトル性能を引出せることが実証された。この考え方は, より広い範囲の問題に適用できる。

〔推薦理由〕

現在あるコンピュータ・システムでは記憶システムは階層構造を採っている。これらのシステムでは記憶階層をいかに使えば計算効率を上げられるかが課題である。スーパーコンピュータでも一般に主記憶, 拡張記憶という高速半導体による記憶階層が使われているが, 一般には拡張記憶装置はディスク・キャッシュとしてしか使われていない。本論文では, FFT において, 全サンプル点を拡張記憶に置き, 部分計算に必要なページを主記憶に高速転送する方法での, 理論的最小計算量を求め, またそれを実現するアルゴリズムを示した。実際にこれをスーパーコンピュータ上で実現し, その有効性を示した。よって論文賞受賞に値する。

妹尾 義樹君 (正会員)



1984年3月, 京都大学工学部情報工学科卒業。1986年3月, 京都大学大学院工学研究科修士課程情報工学専攻修了。同年4月より日本電気(株)C&C システム研究所コンピュータシステム研究部勤務,

高速計算機システムの研究開発に従事, 現在に至る。

研究発表会開催通知

(平成元年 6 月 15 日～7 月 31 日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
ア ル ゴ リ ズ ム	6 月 23 日 (金)	13 : 00～17 : 00	名 大	前号参照
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	6 月 27 日 (火)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
マイクロナンピュータとワークステーション	6 月 27 日 (火)	13 : 00～17 : 00	同 上	同 上
自 然 言 語 処 理	6 月 29 日 (木) 6 月 30 日 (金)	9 : 30～17 : 00 9 : 30～17 : 00	琉 球 大	同 上
数 値 解 析	7 月 7 日 (金)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	下記参照
設 計 自 動 化	7 月 11 日 (火)	10 : 30～16 : 30	同 上	同 上
ヒューマンインタフェース	7 月 13 日 (木)	13 : 00～17 : 00	同 上	同 上
コ ン ピ ュ ー タ と 教 育	7 月 13 日 (木)	13 : 00～16 : 30	同 上	同 上
知 識 工 学 と 人 工 知 能	7 月 13 日 (木) 7 月 14 日 (金)	13 : 00～21 : 00 9 : 00～16 : 15	和 泉 屋	同 上
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	7 月 13 日 (木) 7 月 14 日 (金)	13 : 00～17 : 20 9 : 00～12 : 05	北 大	同 上
情 報 シ ス テ ム	7 月 18 日 (火)	13 : 00～16 : 30	日本私学振興財団	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	7 月 20 日 (木)	10 : 00～17 : 30	筑 波 大	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	7 月 20 日 (木) 7 月 21 日 (金)	9 : 00～17 : 00 9 : 00～17 : 00	N T T 沖 縄 会 館	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	7 月 21 日 (金)	9 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	7 月 25 日 (火)	13 : 00～17 : 00	同 上	同 上
情 報 学 基 礎	7 月 27 日 (木)	10 : 00～16 : 40	国立教育会館	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	7 月 27 日 (木)	10 : 30～17 : 00	東 工 大	同 上

◆ 第 29 回 数値解析研究会

(発表件数：4 件)

(主査：名取 亮，幹事：関口智嗣，野寺 隆，福井義成)

日 時 平成元年 7 月 7 日 (金) 13 : 30～17 : 00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，JR：浜松町下車，バス：渋谷－東京タワー線東京タワー，渋谷－東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車。Tel. 03 (434) 8211〕

議 題

(1) 絶対安定領域最大で打ち切り精度のよい高次陽的 Runge Kutta 法及び陰的 Runge-Kutta 法

田中正次，山下 茂 (山梨大)

〔概要〕 絶対安定領域ほぼ最大で打ち切り精度のよい高次陽的 Runge-Kutta 法、および 2～4 段数陰的 Runge-Kutta 法の公式を提案する。

(2) ランチョス法による状態分布関数の近似計算 岩田末廣 (慶大)

〔概要〕 ランチョス漸化式法をハミルトン演算子 (行列) に応用し、量子化学に必要な一般化状態分布関数を近似計算する。

(3) 多重指数分割による数値表現における多重度の可変性について 中森眞理雄, 萩原洋一 (農工大)

〔概要〕 指数部が多段のフィールドで構成され、しかもこの段数が指数に応じて変動する新しい数値表現方式を提案する。

(4) 線形計画法における退化と内点法 土谷 隆 (統数研)

〔概要〕 問題が退化している場合について、伊理一今井法、双対アフィンスケーリング法の挙動を解析する。

◆ 第 48 回 設計自動化研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 平川和之, 幹事: 数馬好和, 神戸尚志, 山田輝彦)

日 時 平成元年 7 月 11 日 (火) 10:30～16:30

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題 —10:30～12:00—

(1) システム機器構成エキスパートシステム

皆本義弘, 佐藤 敬, 浅見秋美, 日高博文, 伊串泰宣 (沖電気)

〔概要〕 システム機器構成設計エキスパートシステムを試作・評価した。本稿では、その概要と評価結果について述べる。

(2) ゲート論理構造比較・編集アルゴリズムとインクリメンタル論理生成への適用

新舎隆夫, 岡崎慶信 (日立), 越下順二 (日立ソフトウェアエンジニアリング), 久保隆重 (日立)

〔概要〕 機能論理変更時にその変更部分に対応するゲート論理部分だけを変更するインクリメンタル論理生成方法の提案をする。

—13:00～16:30—

(3) 論理図生成へのファジィ理論の応用 橋口由紀 (松下ソフトリサーチ), 西山 保 (松下電器)

〔概要〕 人間の主観に基づく「見易さ」を実現するため、論理図生成における素子配置に初めてファジィ理論の応用を試みた。

(4) スイッチレベルシミュレーションの一手法 吉田久人, 村岡道明 (松下電器)

〔概要〕 ミックスモードシミュレータ向けのスイッチレベルシミュレーション手法を提案し、評価結果を示す。

(5) 知識処理応用アナログ LSI レイアウト手法 加藤直樹, 茂垣真人 (日立)

〔概要〕 アナログ LSI の設計ノウハウや制約を知識化し、回路特性の保障を可能としたレイアウト手法について述べる。

(6) 線分展開法の改良とその評価 小島直仁 (早大), 佐藤政生 (拓大), 大附辰夫 (早大)

〔概要〕 ヒープ探索木に基づく線分展開法を提案するとともに計算機実験結果を報告する。

(7) 述語論理を用いた組合せ回路の故障診断手法 山田輝彦, 中村芳行 (明大)

〔概要〕 述語論理を用いて回路の出力応答から故障箇所を推定する方法とその診断分解能について述べる。

◆ 第 25 回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 小橋史彦, 黒須正明, 角田博保)

日 時 平成元年 7 月 13 日 (木) 13:00～17:00

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) ポイント操作の確率分布とポイント方式の平均打鍵数について 川端信賢 (長崎総科大)

〔概要〕 エディタ、ワープロにおけるポイント操作の頻度分布計測ならびにポイント方式の平均打鍵数の比較評

価を行う。

(2) 日本語文スタイルチェックに関する研究

大森士郎（慶大）、中西健一（ソニー）、小沢英昭、安西祐一郎（慶大）

〔概要〕 構文解析を行い係り受け関係の曖昧性を抽出して、日本語文のスタイルをチェックする手法を提案する。

(3) トピカ計画：創造支援システムを目指して

河越正弘（電総研）、山口徹郎（熊本県工業技術センター）、青山 宏（電総研）

〔概要〕 データベース的支援とカウンセリング的支援からなる創造支援の枠組みを提案する。

(4) 人間からコンピュータへの情報伝達測度とその応用

小川克彦（NTT）

〔概要〕 人間からコンピュータへの情報伝達測度を定義し、図形入力ソフトウェアの操作性評価への応用を試みる。

(5) 学会動向：CHI '89 報告

黒須正明（日立）、岩井 勇（東芝総研）

〔概要〕 この5月初頭、オースチンで開催された ACM の SIGCHI 大会について、その特徴や動向について報告する。

◆ 第6回 コンピュータと教育研究会

（発表件数：3件）

（主査：有山正孝，幹事：雨宮幸雄，大槻説平，竹谷 誠）

日 時 平成元年7月13日（木）13：00～16：30

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室（所在地は前記参照）

議 題

(1) 技術科における教授行動分析のための問題作成とその検討

小山田了三（山梨学院大）、本村猛能（玉川中）

〔概要〕 生徒の学力・知能・環境などを踏まえた授業行動の情報を得るための評価票の作成および授業分析の手法を勘案する。

(2) 大学等の情報教育について 一昭和63年度調査報告一

御牧 義（電通大）

〔概要〕 文部省から情報処理学会への委託研究「大学等における情報処理教育の改善について」の報告書の内容を紹介する。

(3) パネル討論：中・高校数学教育におけるコンピュータ利用

司会：吉村 啓（慶大）

パネリスト：寺田文行（早大）、細井 勉（東理大）、中西正和（慶大）、箕 捷彦（早大）

◆ 第65回 知識工学と人工知能研究会

（発表件数：24件）

（主査：諏訪 基，幹事：中島秀之，西田豊明，原口 誠）

日 時 平成元年7月13日（木）13：00～17：30，18：30～

7月14日（金）9：00～16：15

会 場 ホテル和泉屋

〔長岡市蓬平町，新幹線：長岡（東口）下車，定期バス（3）番（長岡駅前発一蓬平高龍神社行き）：終点高龍神社前下車（40分），徒歩5分または，タクシー：25分。関越自動車道長岡 IC より車で30分または小千谷 IC より車で約40分。Tel. 0258（23）2231〕

7月13日（木）

—13：00～17：30—

I 1989年夏のワークショップ

人工知能におけるいくつかの重要課題について集中的な討論を行って，今後の研究方向を模索する。

1. ポジションペーパーに基づく討論

議 題

(1) 「エキスパートシステムはヒューマンエキスパートを越えられるか？」

1-1 エキスパートシステムの対象問題再考

石川幹人（ICOT）

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| 1-2 行動するエキスパートシステム | 工藤道治 (日本 IBM) |
| 1-3 診断型エキスパートシステムとフレーム問題 | 寺野隆雄 (電力中研) |
| 1-4 アプリケーション開発技術としての AI | 戸沢義夫 (日本 IBM) |
| 1-5 設計型タスクにおける人間の支援 | 木下哲男 (沖電気) |
| 1-6 SKS=GTD+(Domain+Task) knowledge | 山口高平 (静岡大) |
| 1-7 推論制御知識に表現すること | 渡辺正信 (日電) |

(2) 「記号主義でどこまでいけるか?」

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| 2-1 人間対人間のコミュニケーションの高度化を目指して | 石川 孝 (ぺんてる中研) |
| 2-2 記号代数の拡張 | 古閑 政 (群馬情報電子専門学校) |
| 2-3 記号主義の限界——複合システムとしての人間 | 岡 夏樹 (ICOT) |
| 2-4 分散表現ネットワークによる記号とその解釈系の融合 | 森 辰則 (横浜国大) |
| 2-5 人間の情報処理モデルとしての記号主義とコネクショニストモデルの融合 | 仁木和久 (電総研) |
| 2-6 記号表現の分布表現との接点 | 山崎真見 (日立) |

(3) 「機械学習は可能か?」

- | | |
|------------------------------|------------|
| 3-1 シンボリックな機械学習の可能性について | 上田晴康 (富士通) |
| 3-2 AI 研究者は機械学習の研究から何を学習したのか | 松原 仁 (電総研) |
| 3-3 機械学習: もう一つの選択 | 佐藤理史 (京大) |

2. 総合討論

—18: 30 から泊り込み—

総合討論は事前登録制といたします。参加ご希望の方は下記までお申し込みください。なお、定員 (約 40 名) に達し次第、締め切らせていただきます。費用: 宿泊費 約 1 万円

連絡先: 940-21 長岡市上富岡町 1603-1 長岡技術科学大学工学部計画経営系 畝見達夫

Tel. 0258 (46) 6000 (内 3119) Fax. 0258 (46) 6504 JUNET: unemi@voscc.nagaoka.junet

II 一般発表 (8 件) (1 件あたり 45 分)

7 月 14 日 (金)

—9: 00~12: 00—

議 題

- | | |
|--|-----------------------------------|
| (1) 要求出力仕様の理解機能を備えた生産管理エキスパートシステム | 高橋 勉 (日立) |
| 〔概要〕 利用者の要求した出力仕様をもとに、必要なデータと処理手順を組立て実行する生産管理エキスパートシステム。 | |
| (2) 学習機構を備えた工業用文字認識エキスパートシステム | 松崎吉衛, 鈴木英明, 岡本啓一 (日立) |
| 〔概要〕 対象とする文字の特性に応じたニューラルネット型認識ジュールを生成するエキスパートシステムを開発した。 | |
| (3) モデル合成機能を備えた LSI パッケージング金型用流動解析エキスパートシステム | 杉野和宏, 赤坂信悟, 佐伯準一, 大成 尚, 西 邦彦 (日立) |
| 〔概要〕 流路形状から樹脂流動状態を判断し、流動解析プログラムの組合せを生成するエキスパートシステムを開発した。 | |
| (4) 階層型定性シミュレーションによるシステムダイナミクスの理解支援 | 秋吉政徳, 西田正吾 (三菱電機) |
| 〔概要〕 複雑なシステムダイナミクスを定性的に理解するための階層型定性シミュレーションによる支援環境について述べる。 | |

—13: 00~16: 15—

- | | |
|--|-----------------------------|
| (5) 例外データを含む DB からの化学知識の抽出 | 山崎毅文, 桑原 敏, 服部文夫 (NTT) |
| 〔概要〕 例外データの検出、除去に TMS を利用した、DB からの知識抽出システムについて述べる。 | |
| (6) クラスフレーム生成によるフレームの階層化 | 小泉和彦, 大川剛直, 馬場口登, 手塚慶一 (阪大) |
| 〔概要〕 インスタンスを記述したフレームからクラスフレームを生成し、クラス階層を構成する方法について述べる。 | |

(7) フレームの一般化による特徴記述の生成と知識利用型画像検索システムへの応用

森 敏昭, 大川剛直, 馬場口登, 手塚慶一 (阪大)

〔概要〕 フレームの一般化手続きを提案し, 知識利用型画像検索システムの知識獲得に応用する手法について述べる。

(8) A Connotative Treatment of Circumscription

有馬 淳 (ICOT)

〔概要〕 極小限定による従来の外延的極小化によって生じる問題点を指摘し, 内包的極小化による解決法を提案する。

◆ 第 69 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 12 件)

(主査: 田中英彦, 幹事: 後藤厚宏, 長谷川隆三, 横田 実)

日 時 平成元年 7 月 13 日 (木) 13:00~17:20

7 月 14 日 (金) 9:00~12:05

会 場 北海道大学 工学部 A 232 教室

〔札幌市北区北 13 条西 8 丁目, JR: 札幌下車, 徒歩 20 分または, 地下鉄: 北 12 条下車, 徒歩 10 分。

Tel. 011 (716) 2111 内 6472)

7 月 13 日 (木)

—13:00~17:20—

議 題

(1) 大規模知識処理マシンの構成サブシステム間ネットワークの評価

吉田 実 (東大)

〔概要〕 推論マシンとデータベースマシンから構成される大規模知識処理マシンの相互通信を評価した。

(2) 推論プロセッサ UNIREN II のアーキテクチャ

島田健太郎 (東大)

〔概要〕 並列推論マシン PIE 64 の要素推論プロセッサ UNIREN について, 新しく採用されたアーキテクチャを説明する。

(3) プロセッサ間ソフトウェア割込み処理を高速化するスリットチェック機構

中川貴之, 後藤厚宏, 近山 隆 (ICOT)

〔概要〕 密結合マルチプロセッサにおいて, リダクション間に発生する割込み処理を高速化する PIM 用ハードウェア機構

(4) Intelligent Pad: A Tool Kit System for the Synthesis and Management of Active Media Objects

Yuzuru Tanaka, Takamoto Imataki, Akira Nagasaki (北大)

〔概要〕 アクティブ・メディアの視覚的合成機能と, 視覚的管理機能を持つツールキットシステムの開発報告と将来展望。

(5) 対話型ビジュアル・シミュレータの開発

岡田義広, 田中 譲 (北大)

〔概要〕 キューイングモデルを用いた計算機システム評価用の対話型ビジュアルシミュレータを開発した。

(6) 画像生成計算機 SIGHT-2

吉田雅治, 成瀬 正, 高橋時市郎 (NTT)

〔概要〕 処理ユニット 16 台から構成される画像生成計算機 SIGHT-2 のハードウェア構成および性能評価について述べる。

(7) CG 計算機 SIGHT 上の 3 次元ベクトル演算について

成瀬 正, 吉田雅治, 高橋時市郎 (NTT)

〔概要〕 SIGHT 上で効率良く計算できる 3 次元ベクトル演算の集合について論ずる。

7 月 14 日 (金)

—9:00~12:05—

(8) HCL 上の Portable Common Loops のインプリメントと高速化技法

山本 強, 青木由直 (北大)

〔概要〕 われわれが開発した小型・高速の Common Lisp 処理系である HCL (Hokkaido Common Lisp) 上の Portable Common Loops のインプリメント手法と Lisp カーネルレベルでの Generic Function の高速化技法について報告する。

(9) 並列オブジェクト指向モデルに基づく分散型アプリケーション構築法

原田康徳, 浜田 昇, 渡辺慎哉, 宮本衛市 (北大)

〔概要〕 例えば, LISP マシンで推論し, EWS 端末である PC 上の音声合成ボードを動作させるような問題の一般化について述べる.

(10) 並列オブジェクト指向モデルを用いた視覚的プログラミング環境の開発

浜田 昇, 原田康徳, 渡辺慎哉, 宮本衛市 (北大)

〔概要〕 Kamui モデルを用いることにより, 視覚的インタフェースを容易に作成できることを述べる.

(11) Pegasus Prolog プロセッサ —VME bus ボードによる性能評価— 横田隆史, 瀬尾和男 (三菱電機)

〔概要〕 標記プロセッサの命令セット改良点ならびに VME bus ボードでの性能評価について述べる.

(12) 細粒度並列実行支援機構

松本 尚 (日本 IBM)

〔概要〕 マルチプロセッサ用の軽い同期機構と共有バスの競合を緩和させるキャッシュ制御機構について述べる.

◆ 第 25 回 情報システム研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 伊吹公夫, 幹事: 鷹野 澄, 槻木公一, 西原良一)

日 時 平成元年 7 月 18 日 (火) 13:00~16:30

会 場 日本私学振興財団

〔東京都千代田区富士見 1-10-12, JR: 地下鉄有楽町線飯田橋, 東西線九段下下車, 徒歩約 5 分.

Tel. 03 (230) 1326〕

議 題 特集: 経営のための情報システム

(1) グループ MCDM 法に基づく日本の意思決定支援方式

渡部和雄 (日電), Clyde W. Holsapple (University of Kentucky)

Andrew B. Whinston (University of Texas), 阪田史郎 (日電)

〔概要〕 日本の組織で立案者を中心としたグループ意思決定をコンピュータにより支援するグループ MCDM 法を提案する.

(2) DSS への AI 技術のインパクト —DSS から ESS への進展— 佐藤正春 (富士通システム総研)

〔概要〕 AI 技術の進展により, DSS 適用領域は飛躍的に拡大している. DSS の新しいフレームワークと導入の成功要因を紹介する.

(3) ビデオテックスを利用した経営情報システム

渡辺武道 (東洋インキ製造)

〔概要〕 SIS の一環として, 役員でも操作可能な, 次のアクションにつながるグラフ主体の経営情報システムの構築を論ずる.

(4) 戦略的情報システムの対人間性

内木哲也 (野村総研)

〔概要〕 戦略的情報システムの機能を対人間情報システムという側面から捉えて, その重要性を示す.

(5) 戦略的情報システム (SIS) の構築方法論

小野 弘 (日本 IBM)

〔概要〕 企業内の体質の変革および強化を意図した戦略的国際化・情報化諸策を狙いとした SIS の構築方法について論ずる.

◆ 第 61 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 鳥脇純一郎, 幹事: 大田友一, 田島譲二)

日 時 平成元年 7 月 20 日 (木) 10:00~17:30

会 場 筑波大学 大学会館 3 階 特別会議室

〔つくば市天王台 1-1-1, JR (常磐線): 荒川沖駅 (東口) 下車, 関鉄バス (筑波大学中央行き): 大学会館前下車 (約 40 分) または, 常磐高速バス (東京駅八重洲口発—つくばセンター行き): つくばセンター下車 (約 60 分), 関鉄バス (筑波大学中央行き): 大学会館前下車 (約 15 分). Tel. 0298 (53) 5388〕

—10: 00~12: 00—

議 題

- (1) 光の強度比に注目した edge 分類法 高橋裕子, 塩 昭夫 (NTT)
 [概要] 影を含む画像のエッジを光の強度比別に分類する方法と, 分類結果から影や図の領域を切り出す方法の提案をする.
- (2) 顔の面对称性を利用した視線感知法 青山 宏, 河越正弘 (電総研)
 [概要] 人間の顔の対称性を利用することにより, 人の視線・顔が向いている方向を計測する手法を提案する.
- (3) 並行トップダウン処理方式による顔画像の解析 角 保志, 大田友一 (筑波大)
 [概要] 異なる見え方に対応する複数のモデルに基づく解析処理を並行して進める方式について述べる.

—13: 00~16: 30—

- (4) Stereo Correspondence by Selective Search A. Goshtasby (Univ. Kentucky)
 [概要] Edges are divided into different categories, and matching is carried out between edges of the same category in the images.
- (5) 等距離輪郭図における3次元形状回復 田中弘美, オリビエクリン, ダニエルリー (ATR)
 [概要] モアレ投光法により測定された等距離輪郭線図を用い, 曲面体の法線 (傾き)・曲率・変曲点などの表面特徴量の算出法を示す.
- (6) 計算射影幾何学 小野寺康浩, 金谷健一 (群大)
 [概要] 画像面に射影幾何学的概念を導入し, ノイズのある点や直線データの処理やカメラキャリブレーションへの応用を示す.
- (7) 画像データの幾何学的構造の仮説検定 川島孝夫, 金谷健一 (群大)
 [概要] ノイズのある点や直線データの共線性や共点性を計算射影幾何学的概念によって統一的に仮説検定する方式を示す.
- (8) 全方位視野像による環境認識 石黒 浩, 山本雅史, 辻 三郎 (阪大)
 [概要] TV カメラを回転させることにより撮られる全方位視野像の特徴について調べ, その利用方法を検討した.

—16: 30~17: 30 (見学)—

- (9) ビジョン関係研究室 (筑波大)

◆ 第72回 データベース・システム研究会

(発表件数: 23 件)

(主査: 牧之内顕文, 幹事: 大里博志, 清水 康, 佐藤和洋)

日 時 平成元年7月20日(木) 9:00~17:00

7月21日(金) 9:00~17:00

会 場 NTT 沖縄会館

(那覇市楚辺 1-14-12, 那覇空港よりタクシー 15 分, または開南行バス (25 分) で那覇高校前下車, 徒歩 10 分.
 Tel. 0988 (55) 5741]

7月20日(木)

—9: 00~12: 10—

議 題 一次世代データモデル特集・一般—

- (1) マルチメディアデータベースのブラウザ記述 吉川耕平, 佐藤亮一, 花田恵太郎, 宮本雅之 (シャープ)
 [概要] SDM を基礎とするマルチメディア DB のデータ検索・表示を行うブラウザの仕様記述について述べる.
- (2) マルチメディアデータに対する視点実現についての一考察 ドキュメントを対象にして— 宝珍輝尚 (NTT)
 [概要] マルチメディアデータに知識表現における視点の考え方を適用し, その実現方法としてドキュメントを対象に考察する.
- (3) ハイパメディア機能を備えたパーソナル画像ファイル 小川隆一, 大町隆夫 (日電)

〔概要〕 PC から LAN を介して画像を検索し、テキスト、図形等を注釈としてリンクするシステムについて述べる。

(4) 意味データモデルの論理的アプローチ 三浦孝夫(産能大), 有澤 博(横浜国大)

〔概要〕 複合値を許すデータモデルのためのデータ論理を提案し、構造項と述語による記述や操作、型制約等について述べる。

(5) 意味データモデルにおけるストリーム・オペレータの導入 有澤 博, 永江尚義(横浜国大)

〔概要〕 意味データモデルで主体間の関連を表現するために“あや”と呼ばれる構造を定義し、その上で定義されるストリーム・オペレータの諸性質および、マルチメディア DB や CASE 等への応用について考察する。

—12: 45~17: 00—

(6) オブジェクト指向意味データベース OSMAN の実装と評価

石川 洋, 西川正文, 宇田川佳久, 福地陽一, 辻 秀一, 市川照久(三菱電機)

〔概要〕 オブジェクト指向意味データベース OSMAN をワークステーションに実装した。その性能を測定したので報告する。

(7) オブジェクトベースプログラミング言語 JASMINE/C 牧之内顕文, 石川 博, 鈴木文雄(富士通)

〔概要〕 永続的オブジェクトを操作するプログラミング言語 JASMINE/C の機能について概説する。

(8) オブジェクト指向型マルチメディア知識ベース Jasmine の実現

鈴木文雄, 石川 博(富士通), 山根康男(富士通研), 成田美香(富士通)

青島正明(富士通研), 小櫻文彦, 泉田義男, 牧之内顕文(富士通)

〔概要〕 システム構成, 設計思想, 高速化と効率化の実現技術, およびマルチメディア管理の実現について報告する。

(9) オブジェクト指向データベースのハイパテキスト型インタフェース TextLink について

田中克己, 西川記史(神戸大)

〔概要〕 オブジェクト指向データベースのユーザインタフェースとしてハイパテキストの概念を採用したインタフェースシステム TextLink を開発したのでこれについて述べる。

(10) オブジェクト指向データベースにおけるオブジェクト合成操作について 張 秦秀, 田中克己(神戸大)

〔概要〕 オブジェクトの合成のための種々のデータベース操作を導入し、その数学的性質について考察する。ここでの合成操作は、単なるデータの合成ではなく、メソッドの合成も含む点が特徴である。

(11) オブジェクト指向型 DB 応用簡易言語の提案 長岡満夫, 進藤重平, 天水 昇(NTT)

〔概要〕 OA 業務の生産性を飛躍的に向上させるオブジェクト指向 DB 応用簡易言語の仕様と処理系および評価結果を報告する。

(12) オブジェクト指向データベースにおけるオブジェクト転送機構

モハメッド・エルシャケーウィ, 上林弥彦(九大)

〔概要〕 オブジェクト指向データベースにおいて、データ更新がオブジェクトのクラスを変えるような場合の扱いについて検討し、履歴データベースへの応用について考察する。

懇親会 18: 30~20: 30

7月21日(金)

—9: 00~12: 10—

(13) 演繹データベースの再帰問合せ評価におけるページアクセスレベル最適化

楠見雄規(松下電器), 西尾章治郎(阪大), 長谷川利治(京大)

〔概要〕 推移的閉包計算を対象とする再帰問合せ評価法に関して、ページ I/O 量を最小化するためのアプローチを論ずる。

(14) 演繹データベースの並列処理方式の実現と資源割り当て方式 波内みさ, 清木 康, 劉 澎(筑波大)

〔概要〕 並列処理システム SMASH 上に演繹データベースの処理系を実現した。この処理系における資源割り当て方式を提案し、また実験の結果を示す。

(15) 知的設計支援のためのオブジェクト指向データベース

宇田川佳久, 荻野 徹, 石川 洋, 芝 論, 市川照久, 辻 秀一 (三菱電機)

〔概要〕 知的設計支援に必要となるオブジェクト指向データベースの機能を考察し, 試作結果について報告する.

(16) 大量データアクセストランザクションの並行制御方式

大森 匡 (東大), 喜連川 優 (東大生研), 田中英彦 (東大)

〔概要〕 非共有型データベースマシン上で大量データをアクセスするトランザクションの並行制御方式を提案する.

(17) 実時間データベースに適した2段階2相施錠方式

上林弥彦, 最所圭三 (九大), 仲 興 国 (中立ソフト)

〔概要〕 2相施錠方式を実時間データベースに用いるため, 並列トランザクション, 施錠予約, 予約変更等の技法を導入する.

—13:00~17:00—

(18) アプリケーション開発環境 MADE について

田淵仁浩, 村岡洋一 (早大)

〔概要〕 データモデル MeSOD に基づく応用の構築を容易にするアプリケーション開発環境 MADE について述べる.

(19) 階層化されたデジタル地図データベースに基づく都心部自動車用経路案内システム

加藤誠巳, 大西啓介 (上智大)

〔概要〕 支線・幹線に階層化したデジタル地図データベースを利用した都心部自動車用経路案内システムについて述べる.

(20) 文献データベースの知的インタフェースとその性能評価

木下茂行, 加納康男, 高橋友一, 小林幸雄 (ATR)

〔概要〕 文献 DB に対するユーザモデルを導入した知的インタフェースの提案と, その性能評価実験について述べる.

(21) 垂直分散システム向き DB 簡易言語の評価

進藤重平, 長岡満夫, 天水 昇 (NTT)

〔概要〕 DB 簡易言語を使ったオンラインシステム構築事例を紹介し, 生産性向上効果や性能の分析結果を報告する.

(22) 意味データベースによる病院情報システムの構築

青木正憲 (阪大)

〔概要〕 新しい病院情報のシステム化に必要な不可欠な複雑な診療支援を実現する“意味”データベースを構築した.

(23) 並列処理システム SMASH における機械系 CAD データベース実現のための一考察

関 安宏, 関島章文, 清木 康 (筑波大)

〔概要〕 並列処理システム SMASH において, ソリッドモデルを対象とした CAD データベースを実現するための方式について考察する.

* 今回の研究会は, 電子情報通信学会(データ工学研究会)と共催です.

◎20日(木)の研究会終了後, 懇親会を予定しております. 会場の手配の都合上, 事前にご下記までお申込みください.

清木(筑波大) Tel. 0298 (53) 5187

◆ 第39回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 10件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 宇野 栄, 中嶋正之, 守屋慎次)

日 時 平成元年7月21日(金) 9:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室(所在地は前記参照)

—9:00~12:00—

議 題

チュートリアル

(1) 景観シミュレーション

中前栄八郎(広大)

〔概要〕 大型構造物の建設、都市再開発などによる視環境変化予測のためのシミュレーションについて述べる。

(2) 流れ解析結果の CG による可視化 李田淳一, 高島 純, 平野 徹 (ダイキン)

〔概要〕 3次元流れ解析結果を CG を用いて可視化する手法を述べ、その適用事例を紹介する。

(3) 意匠設計における CG シミュレーション 高島 純, 平野 徹 (ダイキン)

〔概要〕 意匠設計において、クレイモデル製作なしに CG 技術を用いて形状・色の検討を行う手法について述べる。

(4) 有限要素法による3次元場磁界解析結果の可視化法

山下英生, 谷詰靖宏, 上甲達也, 中前栄八郎 (広大)

〔概要〕 有限要素解析から得られる3次元場のベクトル量の定常状態および時間的変動状態の可視化法を提案する。

—13: 00~17: 00—

(5) サイエнтиフィックビジュアルイゼーションシステム SGRAF 矢島章夫, 栗原恒弥 (日立)

〔概要〕 数値シミュレーション結果を可視化するシステム SGRAF の機能と適用内容について報告する。

(6) 研究開発におけるシミュレーションと CG 鈴木栄子, 渡辺好夫, 海老 豊 (リコー)

〔概要〕 時間依存および3次元のシミュレーションの可視化を中心に、計算工学への CG の応用例について述べる。

(7) 枝分かれ物体のモデリングとマッピングの一手法 柿本正憲 (富士通研)

〔概要〕 一般化シリンダとその分岐形状をモデリングし、接続部分も連続するようにテクスチャをマッピングする手法について述べる。

(8) 視覚的印象を保存する線分表現法 青山 宏, 河越正弘 (電総研)

〔概要〕 線分近似法を「視覚的印象の保存」の観点から見直し、人間の感覚に合った線分表現法を提案する。

(9) ポインティングターゲットの予知 宮里 勉 (KDD 研)

〔概要〕 ユーザの意図理解への試みとして、マウス操作におけるターゲットの予知についての実験結果について述べる。

(10) 「グラフィックスと CAD」文献データベースについて 川合 慧 (東大), 西原清一 (筑波大)

福井幸男 (製科研), 白石 博 (富士通), 中嶋正之 (東工大), 守屋慎次 (電機大)

〔概要〕 昭和63年1月から12月までに発表されたグラフィックスと CAD の関連文献について報告する。

◆ 第67回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 原田賢一, 幹事: 宇都宮公訓, 大槻 繁, 永田守男)

日 時 平成元年7月25日(火) 13: 00~17: 00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) 第11回ソフトウェア工学国際会議 (11th ICSE) 報告 和田 孝 (日電)

〔概要〕 1989年5月15~18日にピッツバーグで開催された 11th ICSE について報告する。

(2) PPK 法: ソフトウェア設計プロセスの記録と分析の手法

中島 毅, 田村直樹, 藤岡 卓, 上原憲二, 高野 彰 (三菱電機)

〔概要〕 ソフトウェア設計プロセスの記録法 (PPK 法) を提案し、実際の設計プロセスを例にとり、その分析手法を示す。

(3) 設計履歴を用いた通信ソフトウェア設計支援環境 内田修平, 平川 豊, 門田充弘 (ATR)

〔概要〕 ハイパーテキスト上に蓄積された設計履歴を用いての通信ソフトウェア設計支援環境に関して報告する。

(4) コンパイラ利用によるパッチデータ作成法 遠城秀和, 谷口秀夫, 伊藤健一 (NTT データ)

〔概要〕 高級言語で書いたプログラムを対象に、ソースコード差分を基にコンパイラ利用によるパッチデータ

作成法を述べる。

(5) 部品の利用を前提とした保守支援システム

花岡晃治, 深沢良彰, 門倉敏夫 (早大)

〔概要〕 部品を積極的に活用して作成されたシステムに対して, 部品の知識を利用して保守支援を行うシステムの概要について述べる。

◆ 第14回 情報学基礎研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 藤原 譲, 幹事: 有川節夫, 岩野和生, 吉田郁三)

日 時 平成元年7月27日(木) 10:00~16:40

会 場 国立教育会館 402 研修室

〔東京都千代田区霞ヶ関 3-2-3, 地下鉄銀座線, 虎ノ門下車, 徒歩2分, 地下鉄丸の内線: 霞ヶ関下車, 徒歩5分. Tel. 03 (580) 1251〕

—10:00~12:00—

議 題 特集: フルテキスト・データベースのご利益はどこにあるか?

(1) フルテキスト・データベースの実用化における諸問題 学術情報センターでの事例を踏まえて

根岸正光 (学術情報センター)

〔概要〕 学術情報センターでのフルテキスト・データベースの形成, 提供の経験を踏まえ, この種のデータベースの有用性について検討する。

(2) SGML とフルテキスト・データベース

芝野耕司 (東京国際大)

〔概要〕 SGML の概要を述べ, データベース研究の文脈で SGML をもとにしたフルテキスト・データベースについて展望する。

(3) 特許情報のフルテキスト・データベース

大山勝弘 (日本特許情報機構)

〔概要〕 日本特許庁のペーパーレス計画と, その成果物のひとつであるフルテキスト・データベースを基にした JAPIO のサービスシステム開発計画について現状と今後の予定を報告する。

—12:45~16:40—

(4) STN のフルテキスト・データベースについて

廣田勇二 (化学情報協会)

〔概要〕 STN で利用できるフルテキスト・データベースの特徴, 検索時の留意点および現状について報告する。

(5) フルテキストサーチのハードウェア技術について

高橋恒介, 山田八郎, 本村真人 (日電)

〔概要〕 フルテキストサーチのハードウェア技術の進展の経過と技術内容および今後の課題を述べ, 特に, 著者らの開発した文字列サーチエンジンの開発結果と応用開発結果を報告する。

(6) 大規模文書情報システム用テキストサーチマシンの研究

加藤寛次, 藤沢浩道, 大山光男, 川口久光, 畠山 敦 (日立)

〔概要〕 インデキシングが不要な全文検索方式と, これを用いたテキストサーチマシンのプロトタイプングについて報告する。

(7) テキストデータベース管理システム SIGMA とその利用

有川節夫 (九大)

〔概要〕 標記システムの概要と基本的エンジンについて説明し, フルテキストデータベースの構築とその利用について概説する。

(8) General Discussion

◆ 第9回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 野崎昭弘, 幹事: 今井 浩, 中村勝洋, 西関隆夫)

日 時 平成元年7月27日(木) 10:30~17:00

会 場 東京工業大学 南3号館2階 講義室 S321

〔東京都目黒区大岡山 2-12-1, 東急大井町線・目蒲線大岡山下車, 徒歩1分. Tel. 03 (726) 1111〕

—10: 30~12: 00—

議 題

- (1) 平面ネットワーク最小費用流問題に対する内点法的高速化について 今井 浩 (九大)
〔概要〕 平面ネットワークフロー問題に、線形計画法の新たな解法である内点法を適用したときの算法的問題を論じる。
- (2) How to Generate a Primitive Root Modulo a Prime 伊東利哉 (東工大)
〔概要〕 有限体 $GF(p)$ の原始根を効率的に高い確率で生成する方法を提案し、その応用について考察する。

—13: 20~17: 00—

- (3) 曲面に埋め込まれたグラフの近似彩色アルゴリズム 浅野考平 (関西学院大)
〔概要〕 種数が g の曲面に埋め込まれたグラフを、染色数 + 6 色で彩色する線形時間アルゴリズムを示す。
- (4) 多次元 Davenport-Schinzel 列計算における線形化手法とその応用 今井桂子 (九工大)
〔概要〕 多変数関数の集合の下側エンベロップを求める問題での線形化手法と、そのミニマックス問題への応用を示す。
- (5) Characterization of 3-Connected Bipartite Planar Graphs Ilker Baybars (CMU)
〔概要〕 3-連結平面 2 部グラフの特徴付けを与える。
- (6) 第 5 回 ACM 計算幾何学シンポジウム報告 (予稿なし)
〔概要〕 表記国際会議の報告。

* 27 日 (木) アルゴリズム研究会終了後に、東京工業大学新食堂にて合同の懇親会を開催しますので、奮ってご参加ください。同会場にて前日 26 日 (水) には、電子情報通信学会 (コンピューテーション研究会)、翌日 28 日 (金) には、同学会 (回路とシステム研究会) が開催されますので併せてご参加ください。

◆ 自然言語処理研究会

学会誌 Vol. 30 No. 4 でお知らせしました平成元年 11 月 16 日 (木)・17 日 (金) の研究会はシンポジウムに変更になりましたので、シンポジウムの方に奮ってご参加ください。なお、シンポジウムについては 5 月号本欄をご参照ください。

◆ 情報システム

第 26 回 研究会は、平成元年 10 月 17 日 (火) に開催予定でしたが、全国大会と重なるため、開催日を 10 月 23 日 (月) に変更します。開催場所は予定どおり機械振興会館です。

◆ 人文科学とコンピュータ研究会

日 時 平成元年 9 月 1 日 (金) 10: 00~17: 00

会 場 国文学研究資料館

開催内容 研究発表および国文情報処理施設見学

発表申込み締切り 平成元年 6 月 24 日 (土)

「研究グループ」制の新設について

調査研究運営委員会

委員長 猪瀬 博

当学会には、現在、21の研究会がありますが、これらはいずれもかなり確立された分野を対象とした人々の集まりになっております。しかし、ある特定分野の研究開発を短期間集中的に行うとか、新しい研究分野となり得る苗床的研究を同好の志がより集う等の必要性が最近とみに言われるようになりました。このような、より自由で機動性に富んだ活動を促進することは非常に重要と考えられます。

今度、以上のような趣旨に鑑み、手軽に設立することができる以下のような「研究グループ」制度を設けることにいたしました。各会員におかれましては、この制度を活用され、研究活動に役立ていただけるよう希望いたします。

1. 設立／解消の手続き

- a. 所定の書式を用いて、調査研究運営委員会委員長宛計画書を提出し、その承認によって設立が有効となる。
- b. 研究活動終了時は、研究打ち合わせ資料等による報告書を提出する。
- c. 継続期間は原則として2年以内とする。

2. 運 営

- a. 研究グループの主要メンバは、情報処理学会員とし、原則的に独立採算で活動する。
- b. 活動には、学会誌のみどりのページを利用できる。
- c. 当初の活動に必要な資金として、ある上限額以内を学会が援助する。

3. 付 記

活動資金の援助は、年間5万円を上限とし、約5グループ／年を目途とする。この制度は、1989年6月から試行する。

4. 問合せ

研究グループについてのお問合せは、研究会係へ。

平成元年度の会費、論文誌・欧文誌購読費の 納入について（お願い）

本年度の会費および購読費は去る4月下旬に請求いたしました。5月15日までに納入されなかった会員には、6月中旬に郵便振替用紙によって、再請求のお願いをいたします。大部分の方はすでに納入済みですので、未納の方は早急にご納入くださいますよう、よろしくお願いします。

なお、7月末日までに納入いただけない場合には、9月から学会誌、購読誌の送付をストップいたしますので、ご留意ください。また、ストップしました学会誌、購読誌は、その後会費、購読費を納入されても配付を受けられないことがありますので、ご承知ください。

〔自動振替納入利用の会員へ〕

去る5月29日に振替未済の方は7月27日に振替えますので、その前に預金残高を確認いただき、振替額不足にならないようご留意ください。振替金額は5月中旬の請求額どおりです。振替えされた場合には預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」または「コウザフリカエ」と印字されますのでご確認ください。

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募中です。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員（正会員、学生会員、海外会員）であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B 5 判 12 ページとする。したがって英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

3. 応募方法

ア. 正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

イ. 応募論文の第一ページ標題の左肩に「創立 30 周年記念論文」と明記すること。

ウ. 締切 1989 年 8 月 31 日

エ. 送付先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F
(社)情報処理学会事務局 「創立 30 周年記念論文係」

4. 応募論文の取扱い

ア. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはしないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

イ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なもの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

ウ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

エ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

オ. 受賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

5. 表彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

6. その他

不明の事項については、本学会事務局に問い合わせること。

情報処理学会創立 30 周年記念事業賛助金の募集について

当学会はご存知のとおり、昭和 35 年 4 月 22 日に創立され、来年は創立 30 周年を迎えるに到りました。

3 月号巻頭で詳細にお知らせしたとおり、30 周年を記念して国際会議および記念全国大会の開催、記念論文の公募、記念出版、情報処理学会“未来像”の策定、ならびに記念祝典等の事業を計画推進しております。

つきましては、会員各位が前記事業に積極的にご参加いただくとともに、事業運営に必要な経費 2 億 3,000 万円の一部（目標 1,500 万円）につきご賛助を賜りたく、下記により賛助金を募集いたしておりますのでご協力をお願いいたします。なお、ご賛同の方の金額・氏名は本誌本会記事欄にて報告いたします。

記

賛助金募集額	1 口 1,000 円 何口でも可
送 金 方 法	4 月号巻末綴込の専用郵便振込用紙をご利用ください。
募 集 期 間	平成元年 4 月～平成 2 年 3 月。なるべく早めにご送金ください。

第 22 回 情報科学若手の会シンポジウム開催

日 時	1989 年 8 月 7 日(月)～9 日(水)
場 所	豊橋パークホテル (愛知県豊橋市花田町野黒 79 の 2)
定 員	45 名 (先着順、但し同一の組織から多数申込みの場合調整していただくことがあります。)
参加資格	情報科学及びその関連分野で、研究・実務に携わっている若手研究者・技術者
参 加 費	¥ 15,000 (食費こみ、遠方からの参加者には交通費一部補助)
参加申込	A 4 判の用紙に氏名、所属、学年、連絡先、電話番号、(JUNET メールアドレス)、発表題目、発表内容の要旨を記入して送付のこと JUNET の E-mail でも受付けます。
申込締切	1989 年 7 月 24 日
申込問合せ先	440 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1 豊橋技術科学大学情報工学系 大岩研究室内 若手の会事務局 (幹事代表 塩見彰睦) Tel. 0532 (47) 0111 (内 557) JUNET: shiomi@tutics. tut. junet

参加を内諾された先生方 河村知行、高橋延匡、竹下 亨、湯浅太一 (五十音順、敬称略)

※JUNET の NEWS にも案内が出ておりますのでご参照ください。

IFIP CAPE '89 (産業へのコンピュータ応用国際会議)

参加者募集について

IFIP, 情報処理学会, 精密工学会の主催で, 本年 10 月に東京で標記の国際会議を開催いたします。多くの方々の参加をお願いいたします。

本国際会議は, IFIP(International Federation for Information Processing) の TC5(Computer Applications in Technology) による 3 年に 1 度の定例国際会議です。1983 年にオランダで第 1 回を 1986 年にコペンハーゲンで第 2 回を開催いたしました。参加国は約 30ヶ国におよび, 水準の高い論文と密度の濃い討論により, 産業へのコンピュータ応用の国際会議としてきわめて高い評価を得ています。

今回も 31ヶ国より数多くの論文申込があり 78 件の興味深い論文が採択されました。また, 著名な専門家による招待講演やキーノート講演により, この分野の最新技術の全貌を把握することができます。

正式名称 The 3rd International Conference on Computer Applications in Production and Engineering
和文名称 産業へのコンピュータ応用国際会議
会 期 1989 年 10 月 2 日～5 日
場 所 東京 京王プラザホテル
主 催 IFIP, 情報処理学会, 精密工学会

プログラム

「チュートリアル」

CAD Systems: Prof. H. Grabowski, Univ. Fridericiana, FRG

Neural Networks: Dr. H. Szu, Naval Res. Lab., U.S.A.

Fuzzy (日本語): Prof. M. Umano, Osaka Univ. and Prof. K. Hirota, Hosei Univ.

「招待講演」

Management Information Systems in CIM

A. Rolstadas, NTH-SINTEF, Norway

For the 21st Century; Technological Innovation and Corporate Management

T. Sekimoto, NEC, Japan

「セッション」 論文 78 件

Intelligent CAD	Product Modeling	User Interface
CAD/CAM Integration	Intelligent System	Robotics
Planning	Geometric Modeing	Production Management
CAM & NC	Factory Automation	CAE

参加費

「技術セッション」

55,000 円 (7 月 25 日まで)

60,000 円 (それ以降)

「チュートリアル」

15,000 円 (7 月 25 日まで)

20,000 円 (それ以降)

参加要領

別紙の参加申込書を使用して以下の連絡先に送るか、プログラムおよび参加申込用紙を請求してください。

連絡先

〒113 東京都文京区本郷 3-23-1

(財) 日本学会事務センター 国際会議開催業務部門 CAPE'89 会議事務局

Tel. 03(817)5831 FAX 03(817)5836

CAPE'89 「産業へのコンピュータ応用国際会議」参加申込書

申込者 氏名 _____ 氏名の英字表示 _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属, 電話) _____

_____連絡先の英字表記

標記国際会議の参加を下記のように申込みます。

☐参加費 (該当するものを○で囲む)

55,000 円 (7 月 25 日まで) 60,000 円 (それ以降)

☐チュートリアル (該当するものを○で囲む。 題目は一つだけ選択できる。)

15,000 円 (7 月 25 日まで) 20,000 円 (それ以降)

CAD ニューラルネット ファジー

送金方法 (金額、振込年月を記入)

_____円を ____月____日、下記銀行口座に振り込みます。

第一勧業銀行本郷支店 口座番号 075-1076924 口座名 CAPE'89(産業へのコンピュータ応用国際会議)

プログラミング・シンポジウムについて

第 31 回 プログラミング・シンポジウム開催 (予告)

日 時 平成 2 年 1 月 9 日 (火) 午後 1 時～11 日 (木) 正午まで
 場 所 箱根ホテル小涌園
 問合せ先 情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505
 発表申込 9 月 2 日 (土) までに、氏名、所属、連絡先 (E-mail アドレスも)、発表の題と要旨を A 4 判用紙 1～2 枚に書いて事務局宛にお送りください。その採否は 9 月末までにお知らせいたします。発表原稿の締切は 11 月 16 日 (木) です。

参加申込 10 月号に参加申込書を、また 11 月号にプログラムを掲載する予定です。

- 注意 (1) 学術論文発表の場というより、多方面の人々の共通の討論の場であり、意見の交換の場であると考えています。
- (2) 情報処理の健全な発展のために、多数の方々が参加され、とくに利用者の立場から活発に発言されることを期待します。
- (3) 未完成であっても将来に影響を与えるような話題を歓迎します。
- (4) ポスタセッションおよびマイコン・ビデオデモなどの場所を用意する予定です。

「談話理解モデルとその応用」シンポジウム論文募集

談話理解は自然言語処理の中でも近年活発な研究がなされている領域です。自然言語処理研究会では、談話理解研究の現状を総括するとともに、将来を展望する目的で下記の予定でシンポジウムを開きます。シンポジウムの第2日目には公募論文の発表の場を設けます。談話理解の基礎的な問題から応用にわたって興味深い論文を募集しますので、下記要領により奮って論文投稿をお願いします。

日 時 1989年11月16日(木)～17日(金)

場 所 ATR 自動翻訳電話研究所(京都府相楽郡精華町乾谷・三平谷)

スケジュール

16日(10:00～18:00)

- 招待講演「談話の世界とその計算モデル」 片桐 恭弘(NTT)
- 招待講演「談話・推論・文脈」 山梨 正明(京大)
- パネル「応用の立場から見た談話理解モデル」
- ATR 見学
- 懇親会

17日(10:00～17:00)

- 一般講演 公募論文の発表(約8件)

論文の募集要項

1. 発表論文は「談話理解モデルとその応用」に関するものとする。
2. 応募する場合はA4判で12ページ以内の論文のコピー4部を8月19日までに提出すること。
3. 論文査読後、採否の決定は9月20日までに連絡する。
4. 論文の最終版はA4判で12ページ以内とし、10月20日までに提出すること。

論文提出先 情報処理学会 NL シンポジウム係

106 港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

連絡先 東京工業大学工学部情報工学科 田中 穂積

152 目黒区大岡山 2-12-1 Tel. 03 (726) 1111 (内 3046, 4188)

FAX 03 (729) 1399

Junet: take@cs. titech. junet

※ 参加申し込み等については今後本欄でお知らせいたします。

「グラフィクスと CAD」シンポジウム論文募集

グラフィクスと CAD の研究開発は近年ますます盛んとなり、基礎、応用の両面において多くの興味深い話題を提供しています。当学会では、昭和 58 年から計 6 回標記シンポジウムを開催し、多数の研究者、技術者の参加をえて、有意義な成果を得ることができました。本年度も以下の要領で標記シンポジウムを開催いたします。

グラフィクスと CAD の基礎、応用、ハードウェア、ソフトウェアの全般にわたり、これまでの成果の発表から、新しい手法の提案、今後の展望、先端技術を深く追求するものに至るまで、十分な意見交換や議論の種となるような、先駆的な論文の応募をお願いいたします。

特に今回は、インダストリアル・デザイン (CG、形状モデル、入力技術、応用) に関連した論文を歓迎します。

日 時 1989 年 11 月 21 日 (火)～22 日 (水) 9:00～18:00

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません。)

- グラフィクスの基礎／表示技術、リアリズムの追求、グラフィクス入力、データ構造とデータベース、マン・マシン・インタラクション
- グラフィクス・システム／グラフィクス言語とソフトウェア、グラフィクス・デバイスとワークステーション、システムのモデリング、ラスター・グラフィクス、標準化
- グラフィクスの応用／アニメーションとアート、ビジネス・グラフィクス、文書や画像の処理、応用事例
- CAD／設計方法論、形状モデリング、図面の入力と処理、エンジニアリング・データベース、インテリジェント CAD、システム構成法、応用事例

- 実 施 方 法**
- (1) 完成された研究論文のみでなく、問題提起、新しい試み、提案など、いろいろな性格の論文を歓迎する。
 - (2) 論文概要 (和文 A 4 判用紙 1 枚 (1,000～1,500 字)、連絡先等明記のこと) により、採否を決定する。
 - (3) 採択されたものは、本論文 (本学会研究会原稿用紙にて 10 枚以内) を提出していただきます。なお、カラーページの使用が可能です。(詳細はお問合せください。)
 - (4) 採択された論文は、平成 3 年度の研究賞の対象となります。
 - (5) スケジュール

論文概要締切 7 月 10 日 (月)

採択論文決定、通知 8 月 10 日 (木)

本論文締切 10 月 10 日 (火)

申 込 先 情報処理学会 グラフィクスと CAD シンポジウム係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

第3回「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集

～情報システムの計画・分析・設計・評価の方法論と適用事例～

情報システムが社会に急速に普及し浸透している今日、利用者指向の情報システムをいかに実現するかが重要な課題となっている。特に、組織体の総体から見た情報システムの計画・分析・設計など、システムインテグレーションの方法論や、客観的な評価手法などについては、理論的な研究も実例的な応用事例も少なく、体系的な議論が不足している。

以上の観点から、本シンポジウムでは、利用者指向の情報システムの計画・分析・設計・評価の方法論、ならびに、その具体的な適用事例や研究動向などを展望し、幅広い立場から討論をおこないたい。この問題に関心を持つ情報システムの設計者、開発・運用担当者、利用者、管理者およびこの分野の研究者からの論文を募集する。

日 時 1989年12月8日(金)～9日(土) 10:00～17:00

場 所 東京大学山上会館 (113 東京都文京区本郷 7-3-1)

- トピックス**
- 利用者や管理者のニーズの発掘方法、開発者と利用者のコミュニケーション手段
 - 情報システムの分析、モデル化、設計の手法やツール (CASE を含む)、およびその適用事例
 - システムインテグレーションにおける諸問題
 - 情報システムの開発の進め方、プロジェクトマネジメントの手法
 - 情報システムの品質、利用者からみた情報システムの評価
 - 情報システムの各開発工程における評価の尺度、評価手法
 - 情報システムの設計段階や運用段階における品質管理
 - その他 (関係要員教育、……)

- 実施方法**
- (1) 学術的な研究論文のみでなく、経験事例の報告、問題提起、アイデアの提案などの論文も歓迎する。
 - (2) 応募する場合は、アブストラクト (A4判用紙で1枚) を7月11日(火)までに提出すること。
 - (3) 採否の決定は、8月15日(火)までに連絡する。
 - (4) 本論文は原則として和文 (1,548字詰研究会原稿用紙10枚以内) とし、10月31日(火)までに提出すること。採択論文については、論文集に収録する予定である。

申込先 (社)情報処理学会「利用者指向の情報システム」シンポジウム係
106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

問合せ先 本シンポジウムに関するお問合せは、下記までお願いします。
情報処理学会・情報システム研究会 幹事 鷹野 澄 (たかの きよし)
113 東京都文京区弥生 1-1-1 東大地震研究所 Tel. 03 (812) 2111 (内 5807)

「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム論文募集

現在、次世代データベースシステム技術の研究開発が国内外で急速に活発化しております。また、応用分野の広がりにもなう高機能化・モデリング能力の高度化・マルチメディア情報の扱い、ハイパメディアとデータベースの結合、プログラミング言語や演繹機能との融合などの立場から、種々の研究開発が行われています。

本シンポジウムでは、次世代データベースシステムに関連する基礎的な問題から応用事例にいたるまでの幅広い論文を募集し、研究者から現場技術者までの幅広い参加者が発表・討論する場を提供したい。特に、データベース応用の現場からの報告を期待したい。また、今年度は、同じ場所で開催される第一回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議に引き続いて本シンポジウムを行うことにより、国際交流を深める場としたい。

日 時 1989年（平成元年）12月7日（木）、8日（金）

場 所 京都リサーチパーク、サイエンスセンタービル内会議場

トピックス ハイパメディア、図形・画像・音声データベース、視角的操作言語、文書処理、DTPとデータベース、自然言語辞書、テキストデータベース、ビジュアルインタフェース、高度データモデル（意味データモデル、オブジェクト指向モデルなど）、データベースプログラミング言語、プログラミング言語との融合、CAD/CAM/CIMデータベース、CASE、ソフトウェアCAD用データベース、分散型データベース、データベースの並列処理・分散処理、データベースマシン、データベース設計、その他

トピックスは上記のものに限りません。基礎、理論からシステム開発やデータベースの応用まで幅広い論文のご投稿を期待しております。

実施方法

- (1) 論文は審査されます。
- (2) 応募論文の形式は
 - (a) アブストラクトを含め英文5千語まで、または
 - (b) 邦文（9千字まで）で英文アブストラクトをつけたものとする。
- (3) 発表は7日は英語、8日は日本語による予定。
- (4) 興味の高いテーマについてサーベイや招待講演を行う予定。
- (5) スケジュール

論文締切	8月31日（木）
採用決定	9月30日（土）
最終論文	11月4日（土）
- (6) 応募論文はコピー3部を下記申込先へ送付のこと。

申 込 先 情報処理学会 アドバンスト・データベース・システムシンポジウム係
106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

関連行事 以下の行事が京都リサーチパーク内で同時期に予定されています。

12月3日 DOOD チュートリアル

12月4～6日 第一回演繹・オブジェクト指向データベース国際会議

12月5～7日 近未来データベース技術展（仮称）

「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」 シンポジウム論文募集

近年情報処理技術の普及にともなって、従来遅れていた学校へのコンピュータ普及率が急速に向上しています。同時に教育におけるコンピュータ利用の新しい方法に関する研究も活発化し、新しい試みが随所に見られるようになりました。また来年は本会と IFIP の共催による国際会議 “Advanced Research on Computers in Education” が日本で開催される予定です。

この時期に、この分野にかかわる多くの研究者が一堂に会して、広く研究成果を発表し、経験を交換し、検討を行うことは重要な意味があると考えます。

このような観点から、コンピュータと教育研究会では、標記のシンポジウムを開催することを決定しましたので、下記により論文を募集します。

記

内 容 教育におけるコンピュータ利用技術に関する新しい理論、方法またはシステムに関する研究。但しコンピュータリテラシは含まない。例えば下のようなトピックスが含まれます。

(1) 知的 CAI に関する研究

要素技術、学習者モデル、教授方略、誤り原因同定、インタフェース、評価法など

(2) コンピュータを使った新しい教育環境に関する研究

(3) 新しい教育用データベースとその利用

(4) CMI の新しい方法

(5) 知的教具 (AI Tools in Education)

日 時 平成元年 12 月 14 日 (木)～15 日 (金)

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

発表申込み 平成元年 8 月 31 日までに、発表要旨を A 4 判一枚程度にまとめて下記あてにお送りください。

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 「教育におけるコンピュータ利用の新しい方法」シンポジウム係

採否については 9 月 22 日 (金)までに通知します。採用決定者の論文提出期限は 11 月 20 日 (月)です。

なお、このシンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いします。

コンピュータと教育研究会

委員長 有山 正孝 電気通信大学電気通信学部計算機科学科 Tel. 0424(83)2161

幹 事 雨宮 幸雄 東京計算サービス(株) Tel. 03(595)3616

〃 大槻 説乎 九州工業大学情報工学部知識情報工学科 Tel. 0948(28)5551(207)

「1990 年情報学」シンポジウム論文募集

目 的 科学における情報の円滑な流通と高度利用を促進するため、データ・知識に関する基本的問題とその整備・利用に関する討議を行い、研究交流をはかる。本シンポジウムは 1984 年以来毎年開催されている。

内 容 データ・知識に関する課題を具体化し、その理論化と体系化をめざした下記のような論文を募集する。

1. データ・知識の整備：記述，表現，評価，識別，蓄積など
2. データ・知識の流通：標準化，媒体変換，分類など
3. 基礎理論：アルゴリズム（並列・分散コンピューティング，データ構造，分類，暗号理論），推論，モデリングなど
4. 応用：情報工学の枠にとらわれない個別的な専門研究，データベース，AI，言語処理，ソフトウェア工学での応用（分散データベース，オブジェクトデータベース，ハイパメディア），統合システム構築法

共同主催（予定）日本学術会議 情報学研究連絡委員会
学術文献情報研究連絡委員会
学術データ情報研究連絡委員会
情報工学研究連絡委員会

情報処理学会，人工知能学会，日本医学会，日本化学会，日本数学会，日本地理学会，日本物理学会，情報知識学会

後 援（予定）学術情報センター，計測自動制御学会，国際電信電話，情報科学技術協会，情報通信学会，電子情報通信学会，日本医療情報学会，日本科学技術情報センター，日本機械学会，日本金属学会，日本原子力学会，日本材料科学会，日本材料学会，日本生化学会，日本電信電話，日本動物学会，日本農学会，日本分子生物学会，日本分析化学会，日本薬学会，化学情報協会

日 時 1990 年 1 月 17 日（水）～18 日（木） 9：30～17：00

場 所 日本学術会議講堂（地下鉄千代田線，乃木坂駅下車）

参加申込み 氏名，連絡先，職名，資料必要の有無をはがきに記入し 12 月 20 日までに下記に申込む（当日受付もあるが資料不足の際は事前登録者を優先する）。

参加費（資料代として）共催学協会員 5,000 円 学生 1,500 円 一般 7,000 円

講演申込方法 ワープロ使用で A 4 判 4～10 枚の論文と題目，氏名連絡先，職名を記入した別紙を添えて下記宛に申し込む。

講演申込締切 1989 年 9 月 16 日（土）必着

採否通知 プログラム委員会で審査し，採否は 1989 年 10 月 1 日までに通知する。

最終原稿締切 1989 年 11 月 30 日（木）必着

宛 先 情報処理学会 シンポジウム担当 木村保明
106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03 (505) 0505

「立体視技術とその最先端応用」講習会開催について

立体視が効果的な応用分野として、遠隔操作のシミュレーション、流体の空間的な流れの表示、3次元形状の設計があり、最近よく立体視が利用されるようになってきました。またハードウェアの発達も目覚ましく、立体視表示可能なディスプレイもいくつか見られるようになってきました。この状況を正確につかみ、今後の発展を考えるために、昨年夏、集中研究集会で立体視に関する研究発表と討論を行いました。

今年度はこの成果を元に、立体視の基礎技術に関する研究者や、実際に立体視技術を利用している企業の技術者の講演をまとめた本講習会を開催することにしました。グラフィクス応用の技術者やCAD技術者の方々に幅広く参加いただき、今後の立体視技術の発達、応用に対して展望を見出したいと思います。奮って参加してください。

日 時 1989年9月29日(金) 9:30~17:00

会 場 機械振興会館大ホール(地下2階)

申込締切 1989年9月10日(月)

参 加 費 会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円

問合せ先 担当委員 近藤 邦雄 埼玉大学工学部情報工学科 Tel. 0488 (52) 2111

主 査 川合 慧 東京大学教養学部情報・図形科学教室 Tel. 03 (467) 1171 (444)

~~~~~プログラム~~~~~

[立体視の技術]

1. 開催にあたって (9:30~9:40) 近藤 邦雄 (埼玉大)
2. 視覚機能と立体視 (9:40~10:50) 畑田 豊彦 (東京工芸大)
3. 立体視技術とその動向 (10:50~12:00) 出澤 正徳 (理化学研究所)

—— 昼 食 (12:00~13:00) ——

[立体視技術の最先端応用]

4. 立体視技術の工業デザインへの応用 (13:00~14:10) 司会者 内田光太郎 (リコー)
皇中 兼司 (シャープ)
5. 立体視技術の医療分野への応用 (14:10~15:20) 岩崎 賢二 (トプコン)

—— 休 憩 (15:20~15:35) ——

6. 立体視技術のロボット制御への応用 (15:35~16:45) 司会者 守屋 慎次 (東京電機大)
松井 俊浩 (電総研)

-----き り と り 線-----

「立体視技術とその最先端応用」講習会

参 加 申 込 書

平成元年 月 日

申込書 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先(住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000円 非会員 15,000円 学生会員 1,500円

○送金方法

_____円を _____月 _____日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

a. 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 講習会係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945

富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

三井銀行本店 4298739

住友銀行東京公務部 10899

三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

(注) 申込書は1枚1人としてください(この用紙のコピーで可)

「情報処理ハンドブック」の頒布について

このたび、面目を一新した新版の「情報処理ハンドブック（B 5 判，1,600 ページ）」を発行いたしました。情報処理・情報工学および情報科学の全分野をカバーした我が国で最も権威のあるハンドブックで、関連技術者・研究者・教育者・学生の好伴侶となり、また専門外の読者でも容易に概念がつかめ、更に深く進むための手引きとなります。早速に購読されることをお勧めします。

会員には特別価格でお頒けいたしますので、希望者は下記により所定の申込書（コピーにて可）にてお申込みください。なお、目次は次のとおりです。

計算の理論，システム解析の基礎，数値解析，ハードウェア，計算機アーキテクチャ，オペレーティングシステム，データ工学，コンピュータネットワーク，プログラミングの基礎，プログラミング言語の記述と処理系，ソフトウェア工学，人工知能，高水準インタフェース技術，システム論，応用システム，教育，規格と資料。

記

定 価	33,990 円（本体 33,000 円）	送料 900 円
会員特価	28,840 円（本体 28,000 円）	送料 900 円
申 込 先	106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 情報処理学会「情報処理ハンドブック」係 Tel. 03 (505) 0505	

平成 年 月 日

「情報処理ハンドブック」購入申込書

下記により購入を申込みます。（該当欄を○で囲む）

1. 氏 名 _____

連絡先 (〒) _____

Tel. _____

送本先 (〒) _____

2. 情報処理ハンドブック（28,840 円，送料 900 円） _____ 冊

3. 送金の方法

¥ _____ 也を次の方法で送金します。（送金日 ____ 月 ____ 日）

a. 現金書留 b. 郵便振替（東京 5-83484） c. 銀行振込（ _____ 銀行宛）

銀行振込口座番号（いずれも普通預金）

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	三 井 銀 行 本 店	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人	東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会		

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No.)

請求書 通，見積書 通，納品書 通
請求先 _____

平成元年電気・情報関連学会連合大会の開催案内

標記大会は、昨年と同様にシンポジウム講演、パネル討論を下記により開催致します。多数の会員が参加され、活発な質疑討論の展開により会員各位の得るところの多い大会となるよう期待致します。

会 期： 平成元年9月5日（火）～7日（木）

会 場： 早稲田大学理工学部（東京都新宿区大久保 3-4-1）

特別講演： 6日（水）午後1時30分

21世紀の日本のめざすべきもの

——日本のインフラストラクチャの構築——（仮題）

日本学術会議パネル討論： 6日（水）午後3時20分

21世紀の電気エネルギー技術への展望（仮題）

パネル討論の構成

司 会 平山 博氏（早稲田大学）

新 素 材 高橋 清氏（東京工業大学）

情 報 城水元次郎氏（富士通）

エネルギー 関根 泰次氏（東京大学）

研究・教育 岡 久雄氏（三菱電機）

講演日程： 大会日程表をご参照下さい。なお、講演は午前9時、午後は1時30分より開始。

講演論文集： 下記をご参照下さい。

大会参加費： 会員：1,000円、学生（大学院修士課程まで）：500円、会員外1,700円

聴講される場合は、必ず参加費を納入され、参加章を付けてご入場願います。参加は当日も受付
けますが、下記論文集と同時にご予約頂きますと大会前に論文集と一緒に送付致します。

懇 親 会： 6日（水）午後6時より 会場：ホテルストラダ新宿（新宿区新宿 7-26-40）

会費：一般 4,000円、学生 2,000円

論 文 集 予 約 募 集

講演論文集： B5判オフセット印刷、8月中旬出版予定、講演内容は下記をご参照下さい。

予約申込締切： 平成元年8月4日（金）厳守（電話予約は不可。又、この期日以後に注文書の到達したものは
予約扱いとなりません）。

申 込 先： ☎東京都千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 電気学会内

電気・情報関連学会連合大会係 ☎ 03-201-0983 FAX 03-201-1983

申込方法： (1)「予約申込書」をご利用下さい。申込みに際しては、分冊の区別と部数をお忘れなくご記入下
さい。

(2)論文集代、大会参加費はやむをえない場合を除き、必ず代金を添えてお申込み下さい。

(3)学校、官庁では指定の見積書・納品書・請求書を必要とする方は申込みと同時に関係書類をお送
り下さい。

(4)大会参加者は、全員「参加章」を必要とします。

(5)懇親会参加ご希望の方は、必ず代金を添えてお申込み下さい。

送金方法： (1)現金書留

(2)郵便振替 東京 9-3168 番・加入者名：社団法人電気学会

(3)銀行振込 三和銀行日比谷支店・口座番号 120001、住友銀行丸の内支店・口座番号 400019、大和
銀行丸の内支店・口座番号 253876、第一勧業銀行有楽町支店・口座番号 1159649、富士銀行日比谷
支店・口座番号 506232、三井銀行本店・口座番号 0920859、三菱銀行本店・口座番号 0010001（各銀
行とも普通預金、口座名義は社団法人電気学会）

平成元年電気・情報関連学会連合大会日程

(敬称略)						
	9月5日(火) 午前	9月5日(火) 午後	9月6日(水) 午前	6日午後	9月7日(木) 午前	9月7日(木) 午後
1	S. 3 リニアモーターカー実用化の最近の動向 座長 西條隆繁 (芝浦工大)	S. 2 電動機制御における現代制御理論の適用の現状 座長 松瀬貢規 (明治大)	S. 7 ファジィ情報処理技術の最近の動向 座長 向殿政男 (明治大)	・ 日本学術会議 ハネル討論 ・ 特別講演	P. 1 情報通信設備の電保護と雷観測 井出口健 (NTT通信網総合研究所) 座長 井上敦之 (電力中研)	S. 4 制御システム高信頼化の技術動向 座長 関口 隆 (横浜国大)
2	P. 6 電力系統のエキスパートシステム その現状と将来 座長 豊田淳一 (東北大) 副座長 田中秀雄 (東京電力)	S. 5 超電導と精密計測 座長 川村光男 (拓殖大)	S. 8 赤外放射の測定と応用 座長 宮尾 亘 (東京工科大)		S. 9 鉄道電気車の軽量化をめざして 座長 望月 旭 (鉄道総研)	S. 18 最近の大型表示装置とその光源 座長 伊吹順章 (摂南大)
3	S. 12 オプトエレクトロニクスと有機材料 座長 吉野勝美 (大阪大)	S. 11 絶縁材料・技術エキスパートシステムの現状と展望 座長 田中紀捷 (電力中研)	S. 14 混合ガス絶縁の進歩 座長 田頭博昭 (北大)		S. 13 高周波点灯(インバータ)照明システムの動向と課題 座長 野口 透 (摂南大)	S. 17 撮像デバイス技術の展開 座長 安藤隆男 (静岡大)
4	S. 15 テレビ電話とその周辺技術 座長 安田 浩 (NTT)	S. 22 リモートセンシング技術の現状と諸問題 座長 古濱洋治 (ATR)	S. 10 インテリジェントな鉄道システムの構築を目指して 座長 曾根 悟 (東大)		S. 20 非可視光センシング素子・材料 座長 木内雄二 (拓殖大)	S. 19 新しいデバイステクノロジの計算機アーキテクチャへのインパクト 座長 阿江 忠 (広島大)
5	S. 21 光記録技術 座長 今村修武 (東ソー)	S. 26 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術 座長 榎本忠儀 (日本電気)	S. 16 次世代光スイッチの技術課題を探索 座長 西原 浩 (大阪大)		P. 34 インテリジェントオフィスの諸問題 座長 真田英彦 (大阪大)	S. 24 ISDNの実際と課題 座長 宮原秀夫 (大阪大)
6	S. 25 先端的通信衛星構成技術—マルチビーム通信とオンボード信号処理— 座長 山本平一 (NTT)	S. 27 電子機器用電源の高密度化技術 座長 四元勝一 (NTT)	P. 30 CASEとデータベース 座長 片山卓也 (東京工大)		S. 29 企業内教育訓練におけるコンピュータ利用 座長 清水康敬 (東京工大)	S. 23 マイクロ波高温超伝導の展望 座長 小林鶴夫 (埼玉大)
7	S. 31 ソフトウェアの信頼性をめぐって 座長 菅野文友 (東京理科大)	S. 28 最近の医用超音波応用 座長 井出正男 (武蔵工大)	S. 32 並列・分散処理プログラミングとその意味論 座長 稲垣康善 (名大)		S. 35 分散型多元情報処理技術の動向 座長 松下 温 (慶応大)	S. 33 認識と理解 座長 辻 三郎 (大阪大)

平成元年電気・情報関連学会
連合大会論文集

各分冊B5版オフセット印刷

分 冊	課題（S：シンポジウム，P：パネル討論）	講 演 件 数	予 約 価 当 日 値
1	P. 1 情報通信設備の雷保護と雷観測	5	3,800円 (4,400円)
	S. 2 電動機制御における現代制御理論の適用の現状	7	
	S. 3 リニアモーターカー実用化の最近の動向	6	
	S. 4 制御システム高信頼化の技術動向	6	
	S. 5 超電導と精密計測	6	
	P. 6 電力系統のエキスパートシステム その現状と将来	7	
	S. 7 ファジィ情報処理技術の最近の動向	7	
	計	44	
2	S. 8 赤外放射の測定と応用	6	3,700円 (4,300円)
	S. 9 鉄道電気車の軽量化をめざして	7	
	S.10 インテリジェントな鉄道システムの構築を目指して	6	
	S.11 絶縁材料・技術エキスパートシステムの現状と展望	5	
	S.12 オプトエレクトロニクスと有機材料	7	
	S.13 高周波点灯（インバータ）照明システムの動向と課題	6	
	S.14 混合ガス絶縁の進歩	6	
	計	43	
3	S.15 テレビ電話とその周辺技術	6	3,500円 (4,100円)
	S.16 次世代光スイッチの技術課題を巡る	6	
	S.17 撮像デバイス技術の展開	6	
	S.18 最近の大型表示装置とその光源	6	
	S.19 新しいデバイステクノロジーの計算機アーキテクチャへのインパクト	5	
	S.20 非可視光センシング素子・材料	5	
	S.21 光記録技術	7	
	計	41	
4	S.22 リモートセンシング技術の現状と諸問題	5	3,600円 (4,200円)
	S.23 マイクロ波高温超伝導の展望	6	
	S.24 ISDNの実際と課題	5	
	S.25 先端的通信衛星構成技術 ——マルチビーム通信とオンボード信号処理——	7	
	S.26 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術	6	
	S.27 電子機器用電源の高密度化技術	7	
	S.28 最近の医用超音波応用	6	
	計	42	
5	S.29 企業内教育訓練におけるコンピュータ利用	5	3,500円 (4,100円)
	P.30 CASEとデータベース	6	
	S.31 ソフトウェアの信頼性をめぐって	5	
	S.32 並列・分散処理プログラミングとその意味論	5	
	S.33 認識と理解	6	
	P.34 インテリジェントオフィスの諸問題	7	
	S.35 分散型多元情報処理技術の動向	7	
	計	41	
合 本	上記分冊一揃（カバー付）	211	18,100円 (21,100円)

平成元年電気・情報関連学会連合大会論文集価格および内容細目

下記分冊一揃（カバー付）予約価 18,100 円（当日価 21,100 円）

▼〔第 1 分冊〕予約価 3,800 円, （当日価 4,400 円）

（敬称略）

1. 情報通信設備の雷保護と雷観測

〔座長 井出口 健（NTT 通信網総合研究所）井上敦之（電力中央研究所）〕

通信, 情報, 低圧機器の雷被害は, 高度情報社会において広範囲に重大な影響を与えることから, その対策が極めて重要なものとなってきた。本パネル討論によって, 通信設備の雷問題と対策の現状を明らかにするとともに, 今後必要な雷観測を探る。

- 1-1 通信設備の雷保護 1-1-1 通信設備の雷問題と対策 佐藤正治 1-1-2 半導体機器応用システムの雷保護 木村 茂 1-1-3 電力通信設備の雷保護 宮崎光夫 1-2 雷観測 1-2-1 雷観測の現状 横山 茂 1-2-2 落雷位置標定システム (LLS) 石井 勝)

2. 電動機制御における現代制御理論の適用の現状

〔座長 松瀬貢規（明治大学）〕

高精度・高性能運転特性を有する電動機制御システムの実現を目指して, 現代制御理論の適用が進められてきた。更に, マイクロプロセッサの処理能力の向上と演算時間の短縮は, プラントの要求を満足する制御を可能としている。そこで, 電動機制御における現代制御理論導入の現状を探り, 将来を展望する。

- 2-1 総論 多田隈 進 2-2 電動機制御における最適制御理論の適用 大熊 繁 土谷武士 2-3 電動機制御におけるオブザーバの適用 堀 洋一 松瀬貢規 2-4 電動機制御における非干渉制御の適用 内藤治夫 2-5 電動機制御におけるロバスト制御の適用 大西公平 大前 力 2-6 電動機制御における適応制御の適用 杉本英彦 松井信行 2-7 電動機制御におけるスライディングモードの適用 高橋 勲

3. リニアモーターカー実用化の最近の動向

〔座長 西條隆繁（芝浦工業大学）〕

高速・快適で静かな新しい軌道輸送機関としてのリニアモーターカーは世界各国で実用化の段階に入りつつある。代表的な三つのシステムと二つの車輪式の鉄道とのハイブリッド方式について, その実用化の現状と応用の将来展望を紹介し, リニアモーターカーの動向とその適用性を探る。

- 3-1 世界における実用化の動向（総論） 正田英介 3-2 超電導磁気浮上鉄道の現状と将来 藤原俊輔 3-3 HSST の現状と将来 大石 明 3-4 トランスピッドの現状と将来 大塚邦夫 3-5 リニア地下鉄の現状と将来 水間 毅 3-6 M-Bahn の現状と将来 梶野昌利

4. 制御システム高信頼化の技術動向

〔座長 関口 隆（横浜国大）〕

制御システムが複雑化, 大規模化するのに伴い, システムの信頼性に対する要求が厳しくなってきた。ここでは, 制御システムを構成するハードウェア, ネットワークおよび制御用ソフトウェアの高信頼化技術についての動向を探るとともに今後の発展のための討論を深める。

- 4-1 総論—実態と展望— 塚本修巳 4-2 制御用ソフトウェアの特徴と高信頼化の手法 長瀬 博 4-3 制御用ネットワークの高信頼化技術 井手健一郎 中島千尋 4-4 制御用ネットワークの実例と今後の課題 荻野康一 4-5 高信頼化のためのマンマシンインタフェース 四十万稔 4-6 制御装置の高信頼化技術 三枝宏明

5. 超電導と精密計測

〔座長 川村光男（拓殖大学）〕

精密計測における超電導技術は電圧標準, 磁気センサ, 電磁波検出・ミキサなど高感度, 低雑音を必要とするアナログ応用や信号処理, 電磁石などとして実用の段階に入りつつある。しかし, その性能を達成するエレクトロニクスや冷却技術など実用上の問題点も多い。そこで, これらの周辺技術を含む最近の技術の動向と諸問題について討論する。

- 5-1 超電導と標準計測 信太克則 5-2 超伝導と生体磁気計測 栗城真也 5-3 超電導と電磁波検出 松井敏明 5-4 超電導と信号処理 吉清治夫 5-5 精密計測用超電導磁石 野口照夫 5-6 超電導精密計測のための冷凍技術 尾形久直

6. 電力系統のエキスパートシステム その現状と将来

〔座長 豊田淳一（東北大学）副座長 田中秀雄（東京電力）〕

電力系統を捉える新しい視野として AI が注目されており, この中で最も実現性が高いと云われているエ

キスパートシステムは、各所で開発が進められている。このエキスパートシステムについて国内外の現状、ニーズとの整合、技術の進展による将来像を探り、今後の発展のための討論を深める。

6-1 電力系統のエキスパートシステム ——国内の現状—— 守口正司 電力系統のエキスパートシステム ——国内の現状—— 功刀正彦 電力系統のエキスパートシステム ——海外の現状—— 横山隆一 電力系統のエキスパートシステム ——真鳥岩男 電力系統のエキスパートシステム ——将来の動向・現状業務の立場から—— 皆川 保 電力系統のエキスパートシステム ——将来の動向・システム構築検証の立場から—— 田中裕幸 電力系統のエキスパートシステム ——将来の動向・新しい技法適用の立場から—— 松本啓之亮

7. ファジィ情報処理技術の最近の動向

〔座長 向殿政男（明治大学）〕

あいまいな情報、特に人間の主観にまつわるようなあいまいさを取り扱うための新しい理論として、ファジィ理論が注目を集めている。本シンポジウムは、最近のファジィ理論の工学、医学、人文社会などへの応用の現状、及びファジィコンピュータの将来の方向を探り、その可能性と問題点とを浮き彫りにする。

7-1 ファジィ理論の応用に関する最近の動向 向殿政男 7-2 計測におけるファジィ情報処理 森田次次郎
7-3 医学におけるファジィ情報処理 有田清三郎 7-4 ノンエンジニアリング（人事・管理等の社会一般）におけるファジィ情報処理 三重野博司 7-5 ファジィ制御の最近の動向 広田 薫 7-6 ファジィエキスパートシステムの最近の動向 戸貝方規 7-7 ファジィコンピュータの最近の動向 山川 烈

▼〔第2分冊〕予約価 3,700円（当日価 4,300円）

8. 赤外放射の測定と応用

〔座長 宮尾 亘（東京工科大）〕

赤外放射の利用が家電製品にも広く及んできたので、その基本技術となる測定法、光学系、赤外 CCD、赤外カメラの最近の動きおよび問題点を報告し、その応用としてのリモートセンシングの実例と話題性の多い遠赤外線応用の動きと問題点について報告し、討議を行いたい。

8-1 総論 宮尾 亘 8-2 赤外光学系の特性 増谷光正 8-3 InSb CCDの特性 白水俊次 8-4 赤外カメラとその問題点 木股雅章 8-5 赤外放射を用いたリモートセンシング 板倉安正 8-6 遠赤外線の応用動向 松井松長

9. 鉄道電気車の軽量化をめざして

〔座長 望月 旭（鉄道総研）〕

最近の時間価値の増大、高度なサービスの社会的要請は、鉄道電気車両にも強いインパクトを与えており、その効果的な手段としての軽量化技術の進展には、めざましいものがある。ここでは最近の電気車の軽量化の動向、および将来について展望する。

9-1 電気車の動力システムの軽量化 石川 栄 9-2 主電動機の軽量化 阿部政俊 9-3 主回路用半導体装置の軽量化 坪井 孝 木下繁則 9-4 主変圧器の軽量化 遠藤道忠 9-5 保安情報機器の軽量化 西村致知

10. インテリジェントな鉄道システムの構築を目指して

〔座長 曾根 悟（東大）〕

多くのサブシステムからなる大きなシステムで、技術的にも広い領域にわたっている電気鉄道において、気の効いたサービスを低コストで実現するために、独立性の強かったサブシステムを結合するなど、新しい動きがある。これまでの進展と今後の展望を中心に議論を進める。

10-1 鉄道インテリジェント化の全体スコープ 豊田栄次 10-2 車両とその周辺のインテリジェント化技術 長谷川博一 10-3 トータルシステム化——サブシステムの結合—— 渡辺淳一 10-4 踏切のインテリジェント化 福森孝司 10-5 新たな展開を目指して(1) 水間 毅 10-6 新たな展開を目指して(2) 西條隆繁

11. 絶縁材料・技術エキスパートシステムの現状と展望

〔座長 田中紀捷（電中研）〕

現在、急速に発展しつつある絶縁診断（高圧回転機、油入変圧器）、絶縁計測・試験、絶縁設計（ガス絶縁開閉装置）などの分野におけるエキスパートシステム、及び絶縁材料データベースに関する最新の開発状況と今後の展望や課題について、従事されている専門家の講演をお願いする。

11-1 絶縁材料エキスパートシステム調査専門委員会の活動 小崎正光 11-2 絶縁診断エキスパートシステム 11-2-1 高圧回転機 伊藤欣二郎 11-2-2 油入変圧器 阿部景一 梅村時博 三輪直弘 11-2-3 電力ケーブル 大橋義雄 11-3 絶縁計測・試験エキスパートシステム 深川裕正 11-4 絶縁設計エキス

- パートシステムガス絶縁開閉装置 仲西幸一郎 高塚桂三 安田 勝 11-5 絶縁材料データベース 11-5
-1 耐放射線性絶縁材料データベース 角田恒己 11-5-2 絶縁材料データベースの現状と将来 堤 泰行

12. オプトエレクトロニクスと有機材料 [座長 吉野勝美 (大阪大)]

最近の有機材料の進歩はめざましく、特に光学応用への期待は大きい。本シンポジウムでは、有機材料のオプトエレクトロニクス関連に焦点をあて、材料、分子配向膜、液晶、非線形光学材料、EL 素子さらには光コンピューティングなどの話題を集め、その問題点、将来性等を語る。

- 12-1 有機非線形光学材料の作製 中西八郎 松田宏雄 岡田修司 12-2 光情報処理と有機材料 佐々木昭夫
12-3 光集積回路技術と有機非線形光学材料 佐々木敬介 12-4 液晶デバイスの光コンピューティングへの応用 黒川隆志
12-5 分子配向膜と液晶素子 前田博己 小林駿介 12-6 有機色素薄膜の光電効果 工藤一浩 田中匡昭
12-7 有機薄膜 EL 素子 布村恵史 高野繁正 谷 千束

13. 高周波点灯 (インバータ) 照明システムの動向と課題 [座長 野口 透 (摂南大学)]

近年、放電ランプの安定器として高周波インバータによる電子点灯回路を用いたものが多く利用されるようになった。そこで、放電ランプと電子点灯回路との関係を再検討することが望まれる。ここでは、放電ランプと電子点灯回路の協調や問題点などの現状を明らかにし、望ましい姿について発表・討論する。

- 13-1 総論 中西宣一郎 13-2 放電ランプの特性と動向 竜子雅俊 奥野郁弘 13-3 電子点灯回路の特性と動向 水野銛章 乾 健一
13-4 光源から点灯回路への要望事項 平尾洋佐 伊藤一也 13-5 点灯回路から光源への要望事項 釘持芳生 山崎広義
13-6 電子点灯回路に適したランプの開発 渡辺良男 前田孝義

14. 混合ガス絶縁の進歩 [座長 田頭博昭 (北大)]

SF₆の絶縁特性における欠点を改善する目的で、混合ガスの使用が考えられているが、本報告は、電気学会技術報告 (II部) 第 248 号以降の混合ガス絶縁に関する研究を中心に取りまとめたものである。絶縁特性の大幅な改善が期待されるペーパーミスト誘導体の絶縁特性、絶縁耐力向上の要因についても述べる。

- 14-1 総説 諸隈之彦 14-2 基礎過程とシナジズム 生田信皓 14-3 急峻波不平等電界中の絶縁破壊現象 松本 聡
14-4 ペーパーミスト誘導体絶縁 宅間 董 14-5 低温高密度ガスの破壊 原 雅則 14-6 混合ガスの評価と応用 谷垣修造

▼ (第 3 分冊) 予約価 3,500 円 (当日価 4,100 円)

15. テレビ電話とその周辺技術 [座長 安田 浩 (NTT)]

テレビ電話は新しい画像通信メディアとして、技術の進展が目ざましい分野です。また標準化も国内／外で積極的に行われています。さらにこれら技術は通信という領域のみならず、CD、DAT などパッケージメディアへ応用すべく研究がなされています。これら新しいメディアを支える技術の最新動向です。

- 15-1 テレビ電話技術とその周辺技術 島村和典 安田 浩 15-2 静止画テレビ電話の標準化 山下 孚
15-3 静止画テレビ電話技術 上野 裕 15-4 p×64 kbps テレビ電話の標準化 大久保栄 15-5 p×64 kbps テレビ電話技術 羽鳥好律
15-6 符号化技術のパッケージメディアへの応用 橋本 慶隆

16. 次世代光スイッチの技術課題を語る [座長 西原 浩 (大阪大学)]

次世代の光通信や光コンピュータには、より高速な光変調やより高度な光交換技術が要求される。光スイッチはそのキーデバイスであり、多入力化、高速化、高集積化、高信頼化に向けて研究開発が進められている。本シンポジウムでは、その技術課題、現状、将来展望について議論したい。

- 16-1 高速 LiNbO₃ 光変調器／スイッチ 井筒雅之 16-2 LiNbO₃ マトリックス光スイッチ 近藤充和、西本 裕
16-3 LD 光スイッチとそのマトリクス化 池田正宏 16-4 量子井戸半導体導波路スイッチ 浅田雅洋
16-5 過飽和吸収を用いた半導体光スイッチ 山腰茂伸 若尾清秀 延原裕幸 小田川哲史 16-6 2 次元光スイッチ 久間和生

17. 撮像デバイス技術の展開 [座長 安藤隆男 (静岡大)]

近年、画像情報はテレビジョンのみならず、通信・コンピュータの領域まで深く浸透している。今後の画像時代に増々重要度が高まってくる撮影デバイスの最新技術に焦点をあて紹介する。同時に撮影デバイスを支えるプロセス技術の現状や、将来の撮影デバイスの展開方向についても言及する。

- 17-1 アバランシェ増幅型撮像管 倉重光宏 17-2 増幅型固体撮像デバイス 今井正晴 17-3 高解像度

CCD 撮像素子 浜崎正治 17-4 電子スチルカメラ用撮像デバイスの現状と課題 木下貴雄 17-5 固体撮像デバイスのプロセス技術 広島義光 17-6 三次元回路素子とイメージセンサ 鬼追一雅

18. 最近の大型表示装置とその光源 [座長 伊吹順章 (摂南大)]

映像情報時代の進展に伴い、一度に多くの人々に文字・映像情報を提供できる大型表示装置への関心が高まっている。本シンポジウムでは、CRT、放電管等を発光素子とする方式、光ファイバー方式、液晶プロジェクトを中心に、大型表示装置とその光源について最近の技術動向と今後の展望を考える。

18-1 総論 伊吹順章 18-2 LED による大型表示装置 柏原鳳一郎 18-3 カラー液晶ビデオプロジェクト 金谷経一 18-4 光ファイバー使用大型表示装置 前田 徹 18-5 CRT 方式大型表示装置 岩田修司 18-6 蛍光放電管式大型表示装置 井手勝幸

19. 新しいデバイステクノロジーの計算機アーキテクチャへのインパクト [座長 阿江 忠 (広島大学)]

将来の計算機として、超高速かつ知的演算機能を取りあげ、それらの実現を支える最先端の基本技術を討論する。具体的には、デバイスとして GaAs、三次元および光 LSI 技術、また、システムとしてファジィ理論やニューロコンピューティングを取りあげ、将来の計算機に及ぼす影響を探る。

19-1 総論 阿江 忠 19-2 GaAs 技術 赤坂洋一 19-3 三次元 LSI 技術 小柳光正 19-4 光 LSI 技術 武田光夫 19-5 ファジィ理論 山川 烈 19-6 ニューロコンピューティング 平井有三

20. 非可視光センシング素子・材料 [座長 木内雄二 (拓殖大学)]

最近、非可視光は医用や工業用としてその展開が計られており、特に非可視光画像化技術、赤外撮像素子、X 線センサ、微弱光撮像技術について論じる。

20-1 非可視情報の画像化技術 木内雄二 20-2 最近の赤外撮像デバイスの研究動向 山香英三 20-3 ショットキバリア型赤外線イメージセンサ 寺西信一 20-4 X 線センサ 成瀬雄二郎 20-5 微弱光撮像技術 竹山周良 土屋 裕

21. 光記録技術 [座長 今村修武 (東ソー)]

光記録技術の中で特に書換え可能光ディスクの最近の進歩にスポットをあてる。実用化が始まった光磁気ディスクの現状と将来性は、またオーバーライトに特長をもつ相変化型の課題は何か、さらに実用化に不可欠な規格化の話題などを中心に先端技術の動向と将来を展望する。

21-1 光ディスクの現状と将来技術 野村龍男 21-2 光磁気オーバーライト技術 (磁界変調) 尾島正啓 21-3 光強度変調オーバーライト技術 金子正彦 21-4 光磁気ディスクにおける高速転送 稲田博司 窪田恵一 岡田満哉 関口 通 21-5 相変化ディスク技術 船越宣博 21-6 相変化記録媒体 赤平信夫 21-7 書換形光ディスク標準化の現状 森 昌文

▼[第 4 分冊]予約価 3,600 円 (当日価 4,200 円)

22. リモートセンシング技術の現状と諸問題 [座長 古濱洋治 (ATR)]

社会の発展に伴い、人類の活動が地球環境に与えるインパクトを無視し得なくなっている。本シンポジウムにおいては、地球環境をモニタする上で最適と考えられるリモートセンシングについて、その意義や課題、最近の技術動向やシステムの開発状況およびデータ処理技術について概観する。

22-1 地球環境のリモートセンシングの意義と課題 豊田弘道 22-2 衛星リモートセンシングの現状と将来 田中 佐 22-3 リモートセンシング画像のデータ処理 坂田俊文 22-4 光学リモートセンシングの現状と将来 輿石 肇 22-5 電波リモートセンシングの現状と将来 岡本謙一

23. マイクロ波高温超伝導の展望 [座長 小林禧夫 (埼玉大)]

マイクロ波帯において、酸化物高温超伝導体の表面抵抗が、従来の金属のそれよりも下がるかどうかは、エレクトロニクス応用へのキーポイントとして考えられており、現在世界中でその材料評価に関する研究が行われている。ここでは、これらの最近の動向を探り、将来を展望する。

23-1 高温超伝導体のエレクトロニクス応用 岡部洋一 23-2 表面インピーダンスの測定技術 小林禧夫 23-3 高温超伝導体のマイクロ波特性 小林嶺夫 23-4 同軸管、導波管および空洞共振器 峰原英介 23-5 酸化物超伝導材料の高周波特性 小中庸夫 23-6 Nb/高温超伝導体点接触ジョセフソン接合 今井捷三

24. ISDN の実際と課題 [座長 宮原秀夫 (大阪大)]

ISDN サービス開始後約1年余を経過し、ユーザおよびキャリヤの利用・運用実績が蓄積されつつある。また今年からは新しいISDN サービスも予定されるため、本シンポジウムではユーザ、サプライヤ等多角的観点からISDNの現状とその反省及び今後の展開について討論する。

- 24-1 ISDNの導入と運用 24-2 ISDNのネットワーク技術の動向 江川哲明 24-3 企業網とISDN 湊 大作 24-4 ISDN 端末とインタフェース 宇佐見尚 24-5 動画像とISDN 村上仁己

25. 先端的通信衛星構成技術—マルチビーム通信とオンボード信号処理—〔座長 山本平一（NTT）〕

我が国の最先端通信衛星技術を宇宙実証すべく実験衛星「ETS-VI」が、1992年に打ち上げられる予定である。本シンポジウムでは世界的にも注目されている本衛星のミッションとそれを支える衛星技術及び今後の技術動向を議論する。

- 25-1 マルチビーム衛星通信システム 鮫島秀一 川合 誠 25-2 移動体衛星通信システム 三島 発 萩原英二 25-3 大型搭載アンテナ技術 大友 功 門脇 隆 堤 勇二 25-4 搭載SSPA/TWTA技術 田中将義 山口 進 今谷敏夫 25-5 衛星間通信システム 鈴木良昭 塩見 正 田中正人 田中良二 小西登音夫 25-6 光宇宙通信 有賀 規 鹿谷元一 鈴木良昭 小松晃一 白王公一 25-7 大型衛星バス構成技術 中丸邦男 片木嗣彦 北原弘志 赤枝忠義 伊藤浩武 未永雅士

26. 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術 〔座長 榎本忠儀（日本電気）〕

高密度化と高速化に優れたBiCMOS技術がサブミクロンの時代に突入した。昨年サブミクロン技術がはじめてSRAMに適用された。今年はASICやプロセッサにも使われた。90年代は本技術が主役となろう。この時期に、本技術に対する課題と期待を討論し、将来を展望することは極めて有意義である。

- 26-1 1990年代のULSIの主役：サブミクロンBiCMOS技術、その課題、期待、将来展望 久保証治 26-2 サブミクロンBiCOMS, プロセス, その現状と将来展望 赤坂洋一 26-3 サブミクロンBiCOMS ASIC, その現状と将来展望 福田秀樹 堀口勝治 26-4 サブミクロンBiCOMS ゲートアレイとアナログLSI, その現状と将来展望 前島英雄 26-5 サブミクロンBiCOMS プロセッサ, その現状と将来展望 山田八郎 榎本忠儀 26-6 サブミクロンBiCOMS メモリ, その現状と将来展望 落井清文

27. 電子機器用電源の高密度化技術 〔座長 四元勝一（NTT）〕

VLSI技術をベースにした電子機器の急激な小形化の進展に伴い、電源に対する小形化・薄形化の要求が熾烈となっている。本シンポジウムでは、この要求を達成するためのキーテクノロジーである高密度化技術に焦点をあて、最新の電源用高性能部品技術並びに実装技術に関する発表・討論を行う。

- 27-1 パワーデバイスの薄膜化への展望 白江公輔 27-2 トランスの薄形・低背丈化 村上直樹 27-3 アルミ電解コンデンサの薄形化 安藤 進 27-4 電池の小形・薄形化 加納誠三 27-5 最近のHIC電源技術 田淵勝美 27-6 パワーICの技術動向 松崎 均 27-7 高密度実装電源の熱設計 津国敏明

28. 最近の医用超音波応用 〔座長 井出正男（武蔵工大）〕

医用超音波応用は近年急速に発展しており、医療の各分野で広く利用されている。特に超音波診断装置は最新の電子技術を取り入れその性能は世界のトップレベルにある。本シンポジウムでは、最近の現況を探り将来を展望する。

- 28-1 超音波医学の展望 和賀井敏夫 28-2 超音波断層像診断装置 飯沼一浩 28-3 超音波ドブラ診断装置 河西千広 28-4 超音波治療装置 鈴木直樹 28-5 医用超音波装置の標準化 井出正男 28-6 超音波の生体作用 前田一雄

▼〔第5分冊〕予約価3,500円（当日価4,100円）

29. 企業内教育訓練におけるコンピュータ利用 〔座長 清水康敬（東京工大）〕

CAIをはじめ、シミュレータ、EWS、エキスパートシステムなど、コンピュータを利用した最新の教育ツールが開発され、企業内教育に活用されている。ここでは、企業におけるこれらのツール活用教育の新しい流れを紹介するとともに、これからの企業内教育のあり方について討論し、将来を展望する。

- 29-1 NTTにおけるCAI利用の現状 瀬谷正二 29-2 CAI/教育シミュレータによるシステムエンジニア教育 宮岸一孝 29-3 EWSを用いたソフトウェアエンジニア教育 田村武志 29-4 ネットワーク型CAIによる遠隔教育の実例 澤田嘉信 29-5 知的蒸留塔運転訓練用CAIシステム 富田昭司

30. CASEとデータベース

〔座長 片山卓也（東京工業大学）〕

ソフトウェア開発の計算機支援 CASE が注目を集めているが、データベースはその中心的構成要素であり、仕様書とプログラム、テストデータ、メモなど多様なデータの格納や動的变化に対する無矛盾性の保持など高度な機能が要求される。ここでは、CASE データベースの諸側面について議論をする。

- 30-1 CASE におけるデータベースの機能と役割 落水浩一郎 30-2 CASE データベースの構成技術 岸知二 30-3 CASE データベースの実際 上原憲二 30-4 CASE データベースのデータモデル 有沢博 30-5 ソフトウェアプロセスとデータベース 松本弘吉 30-6 ソフトウェアデータベースの技術動向 篠田陽一

31. ソフトウェアの信頼性をめぐって

〔座長 菅野文友（東京理科大学）〕

工業製品としてのソフトウェア、即ちドキュメント及びプログラムの生産に際し、信頼性向上は焦眉の急である。また、国際化の進展による文明の共有は、民族文化を基盤とする分業化を促進している。上記の観点から、現状と今後の動向を、ソフトウェア製品としてのライフサイクル全般に立って展望したい。

- 31-1 ライフサイクルと生産技術 石井康雄
31-2 ソフトウェアの品質保証 中島稜威雄 31-3 計画と管理 花田収悦 31-4 製品の信頼性 藤野喜一
31-5 システムの信頼性 古谷勝美

32. 並列・分散処理プログラムとその意味論

〔座長 稲垣康善（名大）〕

並列・分散プログラムの分析や検証は逐次型プログラムと比較して極めて困難である。そのため、そのようなプログラムを記述する言語の役割りが重要視され、様々な言語が提案されている。ここではそれらの言語の現状を探りまたその将来を展望する。

- 32-1 CCS の意味論とその拡張 結縁祥治 坂部慎樹 稲垣康善 32-2 プロセス間通信に基づく並列処理言語とその表示の意味論 那須 隆 大山口通夫 32-3 GHC の意味論とプログラム変換 上田和紀 村上昌己 32-4 並列オブジェクト指向プログラムとその意味論 柴山悦哉 32-5 様相論理と並列プログラム 米崎直樹

33. 認識と理解

〔座長 長尾 真（京大）〕

認識と理解という人間の知的活動について理解を深めることは、これからの情報処理を考えるうえで重要なことがらである。この問題に対する異なる立場からの知見を一堂に集め、実際の観点から、今までの研究成果と今後の課題について整理する機会を提供する。

- 33-1 認識と理解の諸側面 長尾 真 33-2 認識と理解の哲学 吉田謙二 33-3 認識と理解の心理 波多野 33-4 認識と理解の生理 久保田競 33-5 認識と理解の考え方 小川英光 33-6 認識と理解の実現 谷内田正彦

34. インテリジェントオフィスの諸問題

〔座長 真田英彦（阪大）〕

オフィスワークを単純作業から解放し、知的生産性を高めるための支援環境を提供することは、今後の大きな課題である。

ここでは、現在進められている種々の側面から、現状の問題点を明らかにし、それに対する新しいアプローチを紹介するとともに、将来を展望する。

- 34-1 文書処理の側面から 河田 勉 34-2 ヒューマンインターフェースの側面から 大岩 元 34-3 セキュリティの側面から 八星禮剛 34-4 情報処理の側面から 篠原 健 34-5 マルチメディア処理の側面から 阪田史郎 34-6 オフィス環境・形態の側面から 鈴木義尚 34-7 通信処理の側面から 木下研作

35. 分散型多元情報処理技術の動向

〔座長 松下 温（慶応大）〕

情報処理と通信の境界が不鮮明になり、ますます一体化して扱かわなくなっている。音声とデータという性質の異なる情報を統合化するための技術をネットワーク、端末、データベースの三つの角度から展望し、その課題をさぐる。

- 35-1 分散処理技術の動向 松下 温 35-2 分散データベース 増永良文 35-3 マルチメディアデータベース技術 上林弥彦 35-4 統合型広帯域通信網 大西廣一 35-5 統合型 LAN 清水 洋 35-6 ISDN 用統合端末 星 徹 35-7 マルチメディア通信サービス 浦野義頼

平成元年電気・情報関連学会連合大会
参加・講演論文集・懇親会予約申込書

申込締切日 8月4日（金）

分 冊	予 約 価（円）	部 数	金 額（円）
第 1 分 冊	3,800		
第 2 分 冊	3,700		
第 3 分 冊	3,500		
第 4 分 冊	3,600		
第 5 分 冊	3,500		
合 本	18,100		
大会参加費 （プログラム 参加章）	会 員 1,000		
	学 生（大学院含） 500		
	会員外 1,700		
懇 親 会	一 般 4,000		
	学 生 2,000		
合 計			

（送料は大会委員会で負担します）

平成元年 月 日

上記の通り予約いたします。

1. 代金は ☐前払（現金・振替・銀行） ☐後払（該当にレ印および○印）
1. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通, が必要です。
3. ☐所定の書類が必要なので添付する。☐所定書類はない。（該当にレ印）

〔送本先〕

住 所 ㊦

氏名
（担当者名も記入）

TEL（ ）

支部だより

北海道支部

支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会北海道支部連合大会——

- 期 日** 平成元年 9 月 30 日 (土), 10 月 1 日 (日)
- 会 場** 室蘭工業大学 (室蘭市水元町 27-1)
- 特別講演** ドイツ語圏の俳句 坂西 八郎 (室蘭工大)
- 一般講演** (1) 講演者は主催学会の会員に限る (当支部所属に限らない).
(2) 最近行った研究および調査の報告, 新しい企画および工事等の報告, 新製品の紹介など, 1 件 15 分以内 (質疑応答時間を含む). ただし, 都合により短縮することがある.
(3) 講演論文集は応募原稿をそのままオフセット印刷するので, 応募原稿は必ず実行委員会所定の用紙を使用すること. 図面, 写真を含めて (A) は 1 件 1 頁 (1,600 字), (B) は 1 件 2 頁 (3,400 字).
- 申込方法** 所定の講演申込書及び原稿に講演参加費を添え, 期日までに下記の事務局に申込むこと. なお, 講演申込書と原稿用紙は事務局に申出れば交付する. その際, 発表形式 (A), (B) の別を申出ること.
- 申込締切** 8 月 4 日 (金) 午後 5 時必着 (講演申込書, 原稿, 講演参加費)
- 講演参加費** 1 件につき, 発表形式 (A) は 2,500 円, (B) は 4,000 円
講演者には大会の次第書, 講演論文集, 論文別刷 30 部を進呈する. 有料別刷は取扱わない.
- 懇親会** 9 月 30 日 (土) 18:00~ 室蘭工業大学 学生会館 会費 3,500 円 (学生 2,000 円), 当日受付.
- 申 込 先** 060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学工学部電気工学科事務室内
電気関係学会北海道支部連合大会実行委員会事務局 Tel. 011 (716) 2111 (内 6514)

中部支部

講演会

- 日 時** 平成元年 7 月 6 日 (木) 14:00~16:00
- 会 場** 名古屋工業大学電気情報工学科 3 号館 J2 教室
- 演 題** 知識ベースシステムについて 伊藤 英則 (NTT)
- 参 加 費** 無 料 (参加資格は問いません)
- 問合せ先** NTT データ通信 (株) 東海支社企画部内 情報処理学会中部支部 Tel. 052 (204) 4517
- 日 時** 平成元年 7 月 11 日 (火) 14:00~17:00
- 会 場** 電気文化会館 (名古屋駅より地下鉄東山線藤が丘行きにて伏見下車徒歩 5 分)
- 演 題** 知的システムを目指すニューラルネット・フェジィ推論・エキスパートシステムの融合
高木 英行 (松下電器)
- 国際会議 Int'l. Joint Conf. on Neural Network の紹介及び信号処理への応用
岩田 彰 (名工大)
- 国際会議 Int'l. Joint Conf. on Neural Network の紹介
米倉 達広 (名 大)
- 参 加 費** 無 料 (情報処理学会会員に限る)
- 問合せ先** 情報処理学会中部支部 (前述)

支 部 大 会 講 演 募 集

—平成元年度電気関係学会東海支部連合大会—

期 日 平成元年 10 月 2 日 (月), 3 日 (火)

会 場 静岡大学工学部 (浜松市城北 3-5-1)

特別講演 (予定) 光と共に 35 年 (2 日 午後)

晝間 輝夫 (浜松ホトニクス)

シンポジウム (依頼)

画像処理デバイスの現状と展望

座長 萩野 實 (静 大)

リニアモータエキスプレス

座長 鬼頭 幸生 (名 大)

最近のセンサ技術

座長 内川 嘉樹 (名 大)

種々のプログラミングパラダイムの比較と効果

座長 落水浩一郎 (静 大)

音声・画像の帯域圧縮

座長 板倉 文忠 (名 大)

最近の半導体デバイス

座長 梅野 正義 (名工大)

- 一般講演**
- (1) 講演発表者は主催学会会員に限る。また、講演は 1 人 1 件に限る。ただし、複数の応募論文に共著者として参加することは差支えない。
 - (2) 最近の研究、計画および工事計画、現場試験、新製品の紹介等で未発表のもの。ただし、内容の類似したものが数件にわたることは認めない。実行委員会で不適当と認めた論文は、掲載ならびに講演を断わることがある。また、講演論文は、原則として和文とするが、英文も認める。ただし、講演論文には、和文の題目、氏名、所属等を併記のこと。
 - (3) 一般講演は 1 件 10 分、シンポジウムは 1 件 25 分とする。これらには質問時間は含まない。講演では、OHP の使用を原則とする。ただし、スライドプロジェクタが特に必要な場合は、申込書に必ず記入すること。

講演参加費 1 件につき 2,000 円、講演者には事前にプログラム・参加章および論文集引換券を送付し、論文集は当日渡す。ただし、別刷の申込みには応じない。

講演申込 講演申込書、原稿を下記の実行委員会あて 8 月 8 日 (火) 午後 5 時までまでに必着のこと。同時に講演参加費を郵便振替 (口座番号 名古屋 9-6584 電気学会東海支部) で振込むこと。ただし、講演原稿は返却しない。

なお、プログラム送付 (開催日の 1 週間前頃) 以前に講演日等 (午前、午後の別) を確認したい方は、官製はがきに宛先、希望発表部門、講演題目を記入のうえ、講演申込書に添えること。

また、原稿用紙 (1 論文 1 ページ)、講演申込書および原稿記載要領は、講演申込先に請求のこと。郵送希望者は、5 cm × 10 cm 程度の用紙に宛先を記入し、返信用切手 (1 件 120 円, 2 件 175 円, 3~7 件 250 円, 8~15 件まで 360 円) を同封する。

464-01 名古屋市中種区不老町 名古屋大学工学部電気系教室内

電気関係学会東海支部連合大会実行委員会 Tel. 052 (781) 2222

一般参加費 講演者以外は、参加費 (正会員 500 円, 会員外 800 円, 学生無料) を当日受付で支払い、参加章を受取る。ただし、論文集購入者は参加費不要。

論文集予約 代金 2,000 円 (当日価格 2,200 円) を添えて 8 月 31 日 (木) までに上記の実行委員会へ申込むこと。事前に引換券を送付し、論文集は当日渡す。郵送希望者は、1 冊につき送料 510 円を加えて送金のこと、発送は大会終了後。

懇親会 2 日 (月) 夕刻 静岡大学工学部会館 会費 3,500 円 (学生 2,000 円)

参加希望者は当日大会受付で会費を添え申込むこと。

中国支部

支部大会講演募集

—平成元年度電気関係学会中国支部連合大会—

- 期 日** 平成元年 10 月 29 日 (日)
- 会 場** 広島大学 (東広島市西条町大字下見)
- 講演者** 主催学会会員に限る。連名者には会員外を含めてもよい。
- 講演内容** 最近行った研究、計画及び工事報告、現地試験報告、新製品紹介など。
- 講演方法** (1) 1 件 13 分以内 (質疑応答 3 分を含む)、ただし大会進行の都合で変更することがある。
(2) 原則として OHP 使用、スライド希望の場合は事前に問合せのこと。掛図は使用できない。
- 申込方法** (1) はがきで下記申込先に「講演申込書」「原稿用紙」および「原稿の書き方」を必要件数明示のうえ請求のこと。ただし、同一人による講演は 1 件に限る。
(2) 原稿はオフセット印刷するので、かならず所定の「原稿用紙」(図面・表を含み 1 件 1 ページ)を使用し、黒インクまたはタイプで作成のこと (ワープロ作成の場合は縦・横の制限を守り、かつ、鮮明なものとする)。
- 申込締切** 8 月 31 日 (木)「講演申込書」「原稿用紙」「講演申込費 (郵便振替)」必着のこと。
- 講演申込費** 講演 1 件につき 2,300 円 (論文集 1 部、別刷 30 部の代金を含む)、なお、別刷は大会当日会場で渡す。
- 論文集予約** 代金 1 部 2,000 円 (含送料) を添えて 8 月 31 日 (木) までに申込むこと。大会当日の販売部数には限りがあるので、必要な方は予約をお勧めする。
- 懇 親 会** 10 月 29 日 (日) 特別講演終了後 会費 3,000 円
なお、参加希望者ははがきで 10 月 19 日 (木) までに申込み、会費は当日受付で支払うこと。
- 申 込 先** 730 広島市中区小町 4-33 中国電力(株)営業部内
照明学会中国支部 (山沢) Tel. 082 (241) 0211 (内 3353)
- 交通案内**

(交通機関)

JR (西日本) 山陽新幹線東広島駅下車

・バス (JR, 芸陽) 東広島発 八本松行きまたは大学会館行きに乗車、大学会館下車 (約 15 分)。

・タクシー 大学まで約 10 分, 1,400 円程度

JR (西日本) 山陽本線西条駅下車

・バス (JR, 芸陽) 西条発 大学会館行きに乗車、大学会館下車 (約 15 分)。

・タクシー 大学まで約 10 分, 1,400 円程度

(宿 泊) 各自直接お申込みください。

国民年金健康保養センタ ひがし広島 Tel. 0824 (22) 8211 3,700 円より、大学まで徒歩約 5 分。

西条イン Tel. 0824 (22) 2277 4,400 円より、西条駅まで徒歩約 3 分。

藤乃屋 Tel. 0824 (23) 2423 5,000 円より、西条駅まで徒歩約 1 分。

四 国 支 部

講 演 会

日 時 平成元年 7 月 6 日 (木) 13:00~14:30
会 場 徳島大学工学部知能情報工学科 C20 教室
演 題 パソコンを利用した教材の提示 都倉 信樹 (阪 大)
参 加 費 無 料 (参加資格は問いません).
問 合 せ 先 徳島大学工学部知能情報工学科内 情報処理学会四国支部 Tel. 0886 (23) 2311 (内 4744)

九 州 支 部

支部大会講演募集

——電気関係学会九州支部 第 42 回 連合大会——

期 日 平成元年 10 月 13 日 (金), 14 日 (土)
会 場 佐賀大学理工学部 (佐賀市本庄 1)
講 演 者 主催学会会員に限る (当支部所属に限らない)
講 演 内 容 最近行った研究, 計画および工事報告, 現地試験報告, 新製品の紹介など.
講 演 方 法 (1) 1 件 10 分以内, ただし都合で多少短縮することがある.
なお, 講演募集の結果によっては然るべき件数を選択してシンポジウム形式あるいはレポータ形式の講演とすることがある.
(2) OHP による講演を原則とする. スライドの使用は不可.
申 込 方 法 (1) 原稿はかならず所定の「原稿用紙」を使用すること (オフセット印刷, 図面・表を含む 1 頁とする).
(2) 「原稿用紙」「講演申込書」は申出により交付.
「原稿用紙」等: 1 部 30 円, 郵送の場合は, 1 部 200 円, 2 部以上のときは 1 部増すごとに 80 円増の郵便切手を送付のこと.
申 込 締 切 8 月 28 日 (月) 午後 5 時「原稿」「講演申込書」「講演申込費」必着のこと.
講 演 申 込 費 講演 1 件につき 3,000 円 (講演者には論文集を 1 部大会当日受付にて贈呈する. 別刷の申込には応じない)
申 込 先 812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学工学部電気工学教室内 電気関係学会九州支部連合会
Tel. 092 (641) 1101 (内 5300) (振替口座番号 福岡 8-33001)

東 北 支 部

支部大会講演募集

——平成元年度電気関係学会東北支部連合大会——

期 日 平成元年 8 月 24 日 (木), 25 日 (金)
24 日 (木) 午前: 一般講演・技術報告
午後: 一般講演・技術報告, 特別講演 夜: 懇親会
25 日 (金) 一般講演・技術報告
24, 25 日の両日 展示会 (計測機器, 電子通信機器, 電力機器他)

会 場 日本大学工学部（福島県郡山市田村町徳定字中河原 1 番地，JR 郡山駅より，福島交通バス 日大または徳定行き日大下車）

講演申込方法（前号本欄参照）

申込・原稿締切日 7 月 7 日（金）**必着厳守**（申込書と原稿を同時締切とする）

論 文 集 発表者には，大会当日受付にて配布する．購入希望者は，所要部数を早めに申込むこと（1 部 2,500 円，郵送希望の場合は，郵送料 1 部 510 円）

申込・問合せ先 仙台市荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内 電気関係学会東北支部連合事務局
Tel. 022 (222) 1800 (内 4321) 庄司

懇 親 会 8 月 24 日（木）18：00～ 場所 郡山市内 会費 3,000 円 申込は当日大会会場で受け付けます．

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

システム制御情報チュートリアル講座イーブニングスクール「現代制御工学の基礎」

平成元年 7 月 10 日（月），12 日（水），17 日（月），20 日（木），24 日（月）

三田出版会大阪事務所

セミナー「最新ソフトウェア開発環境を語る」

平成元年 7 月 13 日（木）～14 日（金）

大阪・なにわ会館

平成元年 7 月 19 日（水）～20 日（木）

東京・ダイヤモンド社

高専情報処理教育研究協議会第 9 回 研究発表会

平成元年 8 月 25 日（金）

北海道・苫小牧工業高等専門学校

第 15 回「システムシンポジウム」，第 10 回「知識工学シンポジウム」 合同シンポジウム

平成元年 10 月 19 日（木）～21 日（土）

北海道大学学術交流会館

* 詳細は本号会議案内欄参照

第20回画像工学コンファレンス論文募集
—Japan Imaging Technology '89—

画像工学コンファレンスは、1970年に第1回が開催されてから今回で20回を迎えることになりました。その間、関連学会・研究会の共通の研究発表・討論の場として、日本の画像関係の研究開発に大いに寄与してまいりました。本年は第20回を記念して21世紀への対応を考えると共に新たな発展を期し第20回画像工学コンファレンスを開催することにいたしました。

各関連学会・研究会の会員諸氏からの積極的な発表・応募をお願いします。

- 日 時** 1989年12月12日(火)・13日(水)・14日(木)
- 場 所** ABC会館ホール(東京・芝公園)
- 趣 旨** 画像工学は、画像情報を扱う広い分野の技術に支えられ、学術・産業・医療・民生にわたる分野の発展に貢献しております。本コンファレンスは、日頃活動分野を異にする方々が一堂に会して交流を図ることにより、画像工学分野の研究開発およびその応用をさらに活発化することを目的としています。また、本年は20回を記念して、“画像とヒューマンインタフェース”の観点から画像工学の今後の動向を展望することを予定しています。
- 構 成** 招待講演と、応募による一般講演およびポスタ講演によりおこないます。ポスタ講演はポスタ会場の決められた場所、図表・写真・実物等を示し、興味を持つ聴衆と自由に質疑・討論を交わしながら研究発表をおこなうものです。招待および一般講演については「募集論文の内容」欄の項目に沿い約10セッションにまとめる予定です。また今回は、特別講演と各分野の将来像に関する招待講演も予定しております。講演はすべてオーディオビジュアル機器などを用いたデモンストレーションができます。なおポスタ講演のなかで優秀な発表に対して賞を贈ります。

- 募集論文の性格** 論文として未発表のものに限ります。ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。
- 募集論文の内容** 画像の知覚・入力・記録・蓄積・伝送・表示・理解・処理・計測などの基礎・材料・デバイス・システム・方式・応用・評価等に関連する内容を募集対象とします。“画像とヒューマンインタフェース”に関するセッションとして、「画像の知覚と検出」「DA/DTP」「AI応用画像処理」「ハードコピー」「画像表示・ソフトコピー」「医用画像」などを予定しています。これらに関連する論文の応募を歓迎します。

- 応募資格** とくにありません。
- 応募論文の審査** 応募論文はプログラム委員会において申込時提出の内容概要で審査いたします。また、プログラム編成上、一般講演とポスタ講演との変更をお願いすることがあります。
- 講演形式・時間** 一般講演：質疑応答を含め20分(予定) ポスタ講演：ポスタ会場での発表討議90分(予定)
- 講演申込方法** A4横書きでタイトル・著者・図表などを含め2枚以内の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書(コピー可)を下記の送付先にお送りください。

- 講演申込締切** 1989年7月5日(水) 必着
- 論文集原稿** 採択論文については一般、ポスタとも、図・表・写真を含め7000字以内のカメラレディ原稿(タイプまたはワープロ)を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます(ただし実費自己負担)。原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月中旬、論文採否通知とともに連絡します。
- 論文集原稿締切** 1989年10月25日(水) 必着

- 主 催** 第20回画像工学コンファレンス実行委員会
(担当 画像4学会：画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本印刷学会)
- 加盟学会・委員会** 応用物理学会分科会日本光学会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会・画像通信システム研究委員会・画像処理画像応用研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光量子デバイス技術委員会、電子情報通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識理解研究専門委員会、日本ME学会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会、計測自動制御学会・パターン計測部会、日本非破壊検査協会、日本医用画像工学会、SPIE日本支部。

- 送付先・問い合わせ先** 〒105 東京都港区浜松町2-12-14 第2日化ビル 連企画気付
「第20回画像工学コンファレンス事務局」 ☎ 03(433)2543 FAX03(433)2544

題 目	
講演形式の希望	使用機器
☐ ポスタ	☐ VTR
	☐ スライド
	☐ OHP
☐ 一 般	☐ パソコン
	☐ その他()
☐ どちらでも	持込み・借入

第20回画像工学コンファレンス講演申込書

〒

所在地

機関名

所 属

連絡者

氏 名